

育教の兒幼

號三第 號月三 卷三十三第



內校學範師等高子女京東
會協園稚幼本日

廣島文理科
大學教授
文學博士
久保良英
先生新著

兒童研究所紀要

卷十五

大押定價送
洋圖四金料
裝百四十四
全十五拾五
一頁錢七

久保博士等同好
の士が將來國家
構成に重要な役
割を持つ兒童を
心理學的・生理
學的に研究して
純粹な學的立場
から貴重な成果
を發表せる本紀
要は恒に教育家
の最新知識たり

第五十卷內容目次

有熱兒童と結核の相關調査	廣島市轅町小學校長	栗屋信夫
性格の診斷に關する實驗的研究	濱洲工業專門學校教授文學士	中川哲一
知能檢査に現れたる劣等兒の一傾向	山口縣學校衛生技師	廣川清一
兒童の教科成績の型に關する研究	山口縣女子師範學校訓導	渡邊道
兒童の教養成績の型に關する研究	山口縣女子師範學校訓導	國原太
兒童の道徳意識の發達	福岡縣女子師範學校訓導	松本順之
兒童の惡習の發達	東京帝國大學助教授文學士	守口吉
兒童の道徳性に關する一研究	東京帝國大學助教授文學士	青木誠四郎
改訂せる性行檢査法	文學博士、文學士	上條茂
小學兒童に於ける體格及び體力の相關的研究(第一報)	廣島文理科大學教授文學士	久保良英
廣島文理科大學教授文學士		古賀行藏

合輯定價

1	2	3	4	合輯
金九圓五拾錢	金九圓五拾錢	金九圓五拾錢	金九圓五拾錢	金九圓五拾錢
5	6	7	合輯	
金拾圓五拾錢	金拾圓五拾錢	金拾圓五拾錢	金拾圓五拾錢	
8	9	10	合輯	
金拾圓五拾錢	金拾圓五拾錢	金拾圓五拾錢	金拾圓五拾錢	
11	12	13	合輯	
金拾圓五拾錢	金拾圓五拾錢	金拾圓五拾錢	金拾圓五拾錢	

應用心理研究會編
久保良英主任

應用心理研究

第二卷

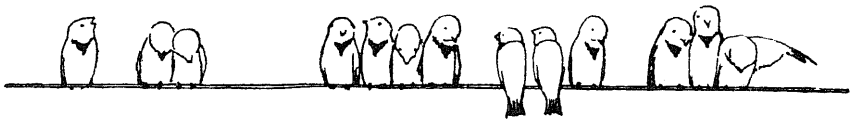
一年三回發行
會費一年貳圓
一冊七十錢
送料六錢

內容

ロシアの計畫經濟に於ける獎勵方法について
文學士 上野陽一
工人養成に關する一二の問題
文學士 松行翁介
血液型と氣質
文學博士 岩井勝二
直接精神療法
文學士 小熊虎之助
分析 赤面恐怖症強迫性狀を合併せる一ヒステリー患者の精神丸井清泰

青年學生の見たる理想の教師
瞬間識別力の發達及び片假名平假名の優劣に就きて
自己診斷表についての一考察
出雲地方に於ける兒童生徒の智的素質の檢査
文學博士 高尾武雄
文學博士 久保良英
文學博士 尾武雄

發行所 東京市牛込區中文字館書店 電話 振替 東京三三三番 電話 二二五番



第 三 十 三 卷 幼 兒 教 育 第 三 號

— (次 目) —

口 繪 つくしり	倉 橋 惣 三 (一)
詫 び る 心 (卷 頭 言)
新 保 育 期 に お け る 計 畫 と 所 期	(二)
田 中 芳 子	山 田 仲 子	鹽 崎 多 眞
早 塚 文	福 島 春 子	白 根 美 智 子
新 入 幼 兒 の む か へ 方	(三)
坂 内 ミ ツ	檜 山 京 坂 日 圭
大 道 て る	渡 部 き よ
春 期 に 於 け る 幼 兒 の 保 健	岡 田 道 一 (天)
四 月 の 觀 察	堀 七 藏 (四)
エ ホ ン シ ョ ウ カ の 歌 曲 に つ い て	福 井 直 秋 (四)
世 界 人 形 行 脚	高 市 次 郎 (至)
遊 戲 「オ ャ ス ミ」 「ヒ ョ コ」	土 川 五 郎 (天)
講 話 「い ろ く の 子 じ ゃ」 Ⅱ	倉 橋 惣 三 (空)
お 茶 の 水 時 代 (完)	(七)
和 田 實	大 關 と よ	野 間 と よ
大 瀧 晴	坂 内 ミ ツ
た よ り	(八)

保姆生徒募集

一、募集人員 六十名

一、出願期日 三月三十一日限り

一、修業年限 一ケ年

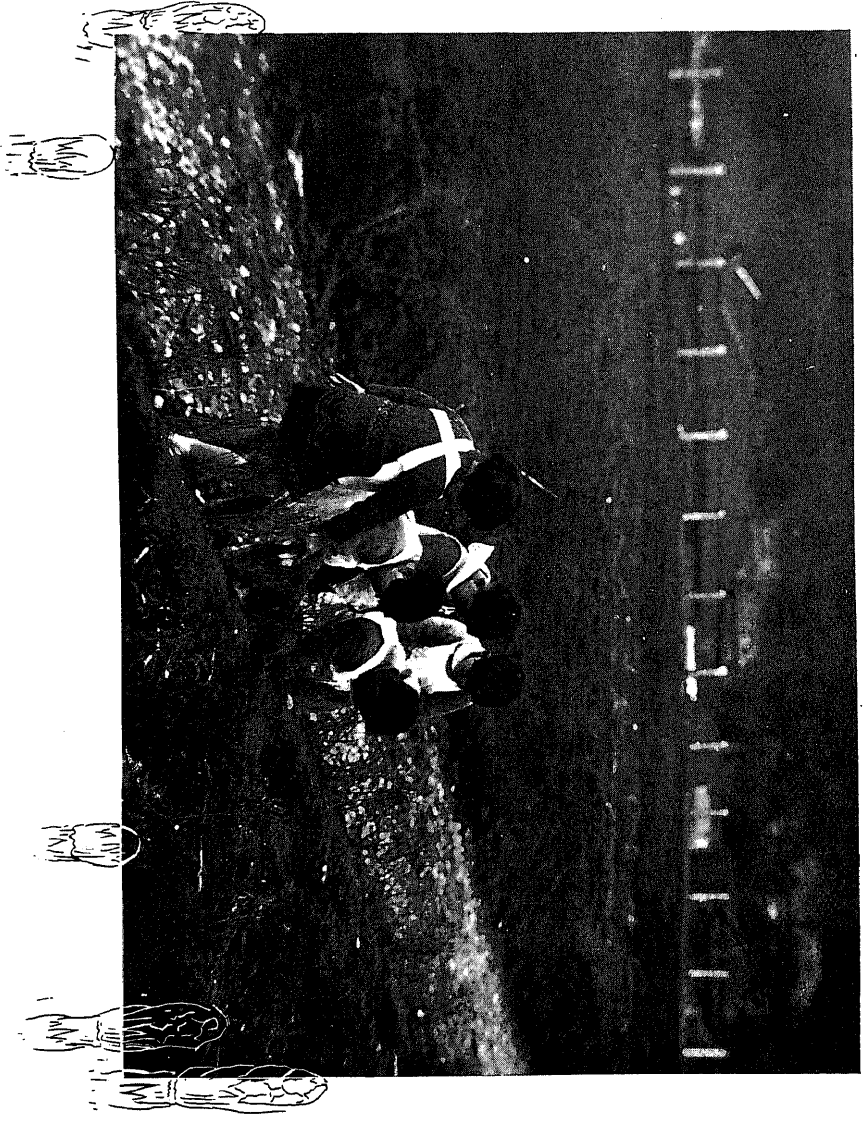
一、特典 無試験檢定

規則書入用ノ向ハ二錢郵券封入御照會アレ

東京市淀橋區下落合三丁目一、三八八(目白驛下車西へ八丁)

目白幼稚園保姆養成所

所長 和田 實



幼 兒 の 教 育

昭 和 八 年 三 月

詫 び る 心

自分としては一ぱいに盡して来たつもりであるが、その自分の足りないために、缺けてゐたこと、誤つてゐたところも少なくなかつたであらう。

そのまた、一ぱいに盡して来たつもりが、その實、甚だたるみの多いものであつたではなからうか。自分の足りなさが、その足りない自分に分らないのは、さうすること出来難いとしても、もつと盡せば盡せるものを盡し盡さなかつたことが氣にかゝる。

よろこばれると濟まなくなる。禮をいはれると氣恥しくなる。うれしさも目出度さに上氣させられるやうな、三月末の賑かさ、はなやかさの後に、子ぎもには知らせずに、そつと獨りで詫びたい心が残る。

新保育期における計畫と所期

東京府女師附屬幼稚園 田 中 芳 子

わけては申し上げ難いのですが、強いて申し上げますならば「體育と精神教育」

にならふか存じます。

體育、恐ろしい嚴格な言ふ響が致しますけれ共、私は「活力を旺盛に」ご願ふ意味なのでございます。申す迄もなく凡そ此の世に生を稟けたものは、その活力の旺盛なものが總てを支配するに存じます。

幼児期に於て活力を旺盛にするには、體力の増進を計るこゝが大切だに存じます。體力を増進させるには先づ、健

康を保つこゝに、こゝ、その身體の成長發達に適當な養護と訓練が必要でございます。何誰かのお話で

「病氣になるに、誰もが大騒ぎして醫者よ薬よ一刻も忽にせず平癒に専念し、食物衣服病室に百方心を配る。不可抗力で冒される事もあるが日常の注意一つで豫防する事が出来るのに、健康時の怠りで病氣する者が多い。よし、病氣は全快しても原の儘だ、苦んで、時ご費用を空費するのみだ。健康時に健康の爲方法をこつたら嘸よいであらふに、病氣程つまらぬものは無い。健康増進の方法は多々あ

らふが、運動等は

第一 愉快であること

第二 體力が増進すること

第三 活動力が練られて能率があること

云々、こんな一舉兩得な事を何故気がつかないのであ
るか

ご歎かれたのを伺ひました。將來を持つ幼児の體力は決し
て分科されたもので育てられるものではなく、全心身で遊
ぶこと、に依つて育つていくものだま存じます。

依頼心が強かつたり、決斷が鈍かつたり、不機嫌であつ
たり、全心身で遊べないのは體力の衰へてゐる時、病氣
の時等が多い様に思はれますので、先づ

病氣にかゝらせぬこと

が大切でございます。成長發達の著しい極めてデリケート
な幼児期程、其病氣は恐ろしい結果を現はすま存じます。

只成長發達を後らす計りでなくゆがめてしまふ原因もな
るま思はれますので、環境の不注意からの病氣は幼児に對
して相濟まぬことだま存じます。都會なごで陥り易い不注

意は新鮮な空氣と太陽の光線から遠ざける事は自然に逆ら
ひ、病原に近づけるまも氣付かず過す等はよくある事で幼
兒の爲に大いに考へねばならぬ所ま存じます。

全心全意遊ぶ習慣をつけること

特に幼児はやり度いなご思ふ事をさせるま全心身に致しま
す。私の幼稚園では、幼児の自然性に乗つて、不知不識の
間に學習への態度を養ふのが保育の方針になつて居りま
す。都會生活である幼児は、狭い所から解放される事を、
非常に喜び、小鳥の様に自由自在に飛び度い氣持で一杯で
すから

廣い場所で、空氣の清らかな所で、お日様を相手にし
て、保育すれば、幼児の、うちにもつ成長、發達の力は
充分に助長され、體力は増進し、随つて活力は盛んになつ
て來るま存じます。只今は改築中の假園舎でございますか
ら、園内丈では此の要求はなし難い場合が多いので、園外
に之れを求めねばならぬのですが、幸、帝大附屬の植物園
が近い事故、(幼児で十五分行程)こゝで、かなり滿される
ま存じますので、從來より一層利用する事ま尙この意味か

らの園外保育、遠足等にも充分意を注いで行かふこ存じて居ります。

精神教育、此も亦四角な感じが致しますが私の考へて居りますのは、丸、でも、四角、でも三角、でも何でも無い、形や、色や、言葉では全部言ひ現はせませんが、何こ申しませうか。

〔母親に對する様な純情〕

を育て度いのでございませう。

「日本人は色が黒くて、小さくて、貧乏だのに何故、あんな強いのであらふか誠に不思議だ何か流れてゐるものがあるのだらふ。その伏流水を飲み度いものだ。」

こ頻りに多方面から研究してゐる秋、私共はジーツコ己れの、よさ、を眺めて、育て、行かねばならないこ存じます。私共の日本人のみの持つ、よさ、強さ、力、即ち忠君愛國の精神も此の純情から、だこ信じます。日本人イッコー爆弾勇士ミ言ふ言葉が生れ非常に恐れられて居ります。事件、時、場所、人、教育、に依つて其發動の形式は千差萬別だらふこ存じますが、物事を決行させるものは、

内より逆り出る純情でなくて何でございませう、それでは母親に對する慕ひ、なつかしむ、大切でたまらぬの情は何處から、等こ理由を切り離して擧げたこ致しますこ

一、 幼児の要求は敏に絶へず、心ゆく迄、満足させて下さるから

一、 如何したら幼児に満足を與へられるかこ日夜、専心、努力創造して下さるから

一、 幼児の要求を適當に満足させるこを楽しんで居られるから

一、 母親は幼児の將來の爲に生きて下さるから
一、 母親のそばなら安心だから

等々々、それで、なつかしく、慕はしく、ほんこに大切なのであらふこ存ぜられます、幼稚園の精神教育のねらひ所方法も亦これに依つて暗示されてゐる様に思ひますのでこれを中心こする保育を行つて行き度いこ願つて居ります。

要するに、活力の旺盛な子供らしい子供

母に對する様な明るい親しみある子供

に迄育て度いこ思つて居ります。

絶えず思ふここのみ多いので御座りますが、計畫さいひ、所期さいひ、こゝで仰々しく述べさせていたゞくほどのこゝも御座るません。

然し本園で新しく試みやうとし、現在着々その準備を進めて居りますここの二つ三つを、まゝならぬまゝに述べさせていたゞきます。

運動場

本園で新しく計畫いたして居りますこゝは、幼児用の特殊運動場で御座ります。子供は實によく走ります。いつ見ても小走りに走つて居ります。物みなすべてが甦る春を控えて、草に親しみ、土に親しみ、そして足元へ何の懸念もなく、せい一ぱいの力を出して遊び得る場所を造りたい、こゝうした考から、園の直ぐ前に第二運動場を設けて、可愛ら

しい競技場を造ることにいたしました。競技場さいつても、無論競技を奨励いたす爲めでは御座るません。凡そ三百坪ばかりの地内に五千メートル位の橢圓形を造り、中央は芝生とし、圓形の周圍にはベンチ、樹木等あしらひ、南陽をうけて花壇を造り、幼児自ら培はせたいと思つて居ります。

プールの擴張

従來のプールは廣さ凡そ十六坪で御座るまして、深さは七寸から二尺まで、御座るますが、二年間實際使用の結果、園兒にも七寸や一尺位ではなかく満足いたしませんので、二尺の深さの所をもう五坪ほゞ擴張、夏の幼兒の都會生活をして、自由に快適に過させたいと思つて居ります。

理想計畫

各保育別に夫々適當な保育室、理想的な建築など、數々の理想を持つて居りますが、十二月號と二月號に發表させて頂きました通り、衛生方面では漸くその一端を果し得ましたので、今後は食物の兎角偏し易い幼児期に於ける栄養食の統一を計りたいと思つて居ります。もつともこれはお辨當だけの話で御座りますが、それには充分研究された榮

□

養食を與へ、そのためには園内に炊事場を設けて、完備された建物が、更に衛生料理等に熟練された専門家を必要とします。未だ、幾多の研究が必要と存じますが、着々その準備をすゝめてゆきたいと思つて居ります。幸に皆様方の御批判と御指導を仰ぎたいと存じて居ります。

西京にて 鹽 崎 多 眞

私共の心がまへから出發した計畫の一つ、 一、幼児自身の話し方

お話し好きの子供に對しての聽かせ方及、聽く態度の養成等に就きましては、相當其研究が進められてゐる様で御座います。私共は、なほ其上に、子供自身の言語發表方面の事につきまして、あらゆる手段を研究を進めて知り度と思ふので御座います。

そこで幼児の幼稚園生活中特に次の様な機會即ち、幼児

等朝登園からラヂオ體操時間(幼稚園始業時)迄、及、晝食後の座談、其他自由遊戯中に於ける彼等のお話を重視する事でお座います。

此時彼等は語る、又語らせる、保姆もお相手をしつゝ共に聞く、自由な話、道で有つた事、家の事、友達の話、自分の事、等の會話を次から次へ進めて行くうちにも、内氣な子、片意地な子供等の無口には、一しほ保姆の骨折りを要する事でお座いませう。然し、かくするうちに

正確な美しい言葉の練習も知らずく、容易に出来、又、言語による幼児の意志表現の愉快は、子供同志お互に且保姆も共に、いさも仲睦まじの生活を眞剣に続けられて來る事で御座いませう。

なほ此機會を利用しての教育的價値は限りなく見出され得るものご頼もしう存じ居ります。

私共は次の様な事項を、しつかり胸に秘めて、

新保育期に所し度いご存じます。

一、受持つ子供の一人く全部が私の心に眞に融け合ふ事の望を抱いて。

私共は來る年もく今年こそはこの心がまへをして新しいお子様を迎へるので御座います、お預りした以上、至らぬながらも、自己生命の有らん限りを盡しお世話して、さうにか、少しの落ちつきを見出したご思ふ頃、既に次の年を迎へねばならない三月がまるつて居ります、しかも大部分は小學校へ送らねばなりません。如何にあわただしい月日の流れで御座いませう。今年今日、

亦其時が参りました、去年三月末、一同の保姆の方々に共に、明年こそは迎へるお子様方を眞實の眞心を以つていさも親切に、そして強きも弱きも、美しきも醜きも、富めるも貧しきも、優れたるも劣れるも、おのく如何に己が目、又、心にうつるまでも、それくの父母の心にたちかへり、しつかりご、お育てして、参りませうご、誓ひ合つたので御座いました、扱て一年後の今日當の私はさうで御座いましたらふ。保育の道に携り此處に年を重ねる事幾何なる私が、ほんさうに素直に私の心に反問して見ました時、實にく自己の足らなさを、お恥かしく思ふばかりで御座います。殊に賢明な若き方々にお話申すさへ心恥かしい氣持ちが致します。私はかうして、一足く行つてはもぎり、戻つては行き、はてしない道の遠さに今年も亦、明年こそはご、昨春の心構へを基礎として其上に、何の子もく一人残らず、何のこだはりも憶病さもなく、いさも自然に母や姉に語らふ面持ちで私に接してくれる様な子供に育て度ものご祈りつ新保育期を迎へんごして居るので御座います。

二、先づ自らを省みつゝ、

1、すなほで平和な心持ちで子供に接する事。

喧嘩した時、泣いた時、すねた時、悪戯した時等の場

合、私が引合に出ねばならなかつた時を省みて。

2、私の強さが表面に現はれ様とする時、かたづを呑ん

でも自我を制する事。

年の幼い子供程、赤らやんである程子供に従つてやる

母の心を思ひ出て。

3、日本女子としての、つゝしみ、をしつかり抱いて。

□

東京市下谷區黒門小學校附屬幼稚園

早 塚 文

八

お父様やお母様のいふことを聞きませうと申聞かせる

前に、私は両親祖父母へ對するの態度はさうであら

ふ、そして師の君へは等じ。

三、保姆一人に對する受持幼児數三十人以下なれかし祈

る。

國家大難の秋も、人間接觸教育の價値を認められて

居る今日、幼き者程、少きこそ、右第一項第二項の徹底

をも、はかれる所以で御座います。かくして、ほんさう

の幼児教育の實をあげたいと祈つて止みません。

今までは保育室二つ丈けの幼稚園でしたが、新學

期からは保育室三室、及二教室を續けた大ききの遊戯室を

備へる丈に擴張する事になりましたので、小學校の一階

は全部幼稚園で使用することにしました。従つて組も一

組増設致す計劃で目下幼児の大募集中ではありますが、時節

柄募集の方法については可成り苦心いたしました。一月頃

から年長組の幼児にポスター(畫用紙全版二ツ切り)をクレ

オンで繪がかせておいたのが七十枚出來上りました。印刷

物として幼児の生活の寫眞を二枚刷り込んだ「設備擴張に

伴ふ幼児大募集」のビラを用意し、それをポスターの下に

貼り付けて幼児の家庭にお願ひして人目につく店先や、町内の掲示板に掲けてもらひました。尙學區域内の幼稚園年齢の子供のある家を調査して、右の印刷物を封筒に入れ宛名を書いて本校の全生徒に配布してもらひました。その外要所々に立看板を立てる等出来る丈の方法を取つて見ました。

幼児の送り迎へについて、

幼稚園の位置が通園の往復に非常に危険なところにあります。通學區域十三ヶ町の内電車通り、自動車通り等の危険なしに來られるのは西黒門町只一ヶ町丈で他の十二ヶ町は全部一ヶ所か二ヶ所の電車道か自動車道を横断しなければならぬ然も交通の最も激しい廣小路を中心として居りますので親に取つても、子供に取つても苦勞の一つであります。幼稚園として何さか安全に幼児を往復させる方法を取り度い三種々考へて居りましたが、結局自動車を利用する云ふ案が出て居るのですが、それには相當の費用がかかりますのでその出費について保護者會のお骨折を願はなければならぬ問題ですから新入園兒の數が決定した上

で保護者會を開いて何さか方法を取つていただく事になつて居ります。

保育時間について、

家庭の大部分が商店でありますから、忙しい御店の仕事に追われてつい幼稚園にお迎ひに來るのを忘れたさか、忘れたわけではないが今一寸手が離せない、小僧が皆出拂つて居る、お客が立込んで居て、氣を揉み乍らも、迎へに出られない、今、お店番がなくてごうする事も出来ない、等云ふ様な事はごこの家庭にも時々はある事と思はれます。この場合一時間や、三十分お迎へがおくられても幼稚園では先生が面倒見て預つて居て下さるご親達を安心させる事が出來たならば家庭の爲めにこれ丈助かる事かと思はれます。今迄にも二三度そんな場合があつて四時近くまで預つた事がありますが、一般の家庭はお歸り時間までには萬障繰り合せてお迎へに行かねばならない習慣になつて居ります。一學期頃は一時か一時半のお歸りですから忙しい家ではやつとお晝食の時間に早や、幼稚園が退けてしまふので、少し遠方から通ふ家庭では送つて、歸つて來て、何

する暇もなく又すぐ迎へに行かなければならない、これでは、忙しく困つてしまふ、云ふのをちよいちよい耳にした事もあります。

そこで今少し保育時間を長くする必要がある云ふ事は早くから考へさせられて居りましたが、比較的有産階級の家庭が多い爲めあまり痛切な問題ではありませんでした。然し擴張に伴ふ大募集をしますからには、今までは眞に幼稚園に出し度い必要に迫られて居乍ら何さなく出す事の出来なかつた様な家庭の子供を充分に收容し度い考へて居りますがそれには、保育料の値下げが第一の問題で私共は二圓五十銭説を主張したし度いのですが、それは到底望めない事です。せめて三圓にでもこ頼つて居りましたが幸に區の有力な方々の理解を得て新學期からは値下げが實現される豫定を承つて居ります。

幼稚園は月謝が高い割合に時間が少ないから割が合はない云つて大切な子供を路傍に遊ばせて居るのを見ます時、保育料に次いで保育時間が大切な問題だと思はせられるので出来る事なら全體的に保育時間を一時間延ばして見

度いと思れますが、半分以上の家庭はその必要を認めませんのでお歸り時間は普通一般と同じにしておいて、家庭の希望により或は其の日の都合によつては三時か三時半頃までは預る事が出来る云ふ事を家庭に知らせてお母様方の要求に應じた幼稚園に致し度いと思つて私共三人の保母は意氣込んで居ります。然し先づ一番に案じられるのは疲勞の點です。誠にお恥しいのですが、今でさえこんなに疲れるのにこ思ひます、一時は躊躇いたしました方法によつてはそれ程の事もないでせうと決心いたして居ります。

疲勞れるのは保母だけではないでせう。子供も時には疊の上に寛いでも見度くもなるでせう。時節によつては晝寝の事も考へなければなりません、勿論おやつのもも考へて居ります。幸に小學校の作法教室が二十疊のお座敷ですからそこを利用する事に致しまして計劃を立てた次第で御座います。

それと關聯いたしました四月に入園致す年少組は何時頃からお辨當にするか云ふ事で御座いますが幼稚園によつては五月からお辨當で、それまでは半日にして居られる所

もある様です。何時頃からお辨當にするのがよい方法であり

ますか私にはよく分りませんので御座いますが、家庭に
しても、又子供にしても幼稚園の御辨當は何より楽しいも
ので御座いますから、特別發育の遅い子であまり疲勞れ過

ぎる云ふ様な事でもありますなら別ですが普通の場合は一
日も早く御辨當にしたいものと思つて居ります。それで

昨年試みに四月四日から全部お辨當にいたしました(勿論
二年保育の年長組は當然であります)、お歸りの時間は一
時半をいたし、年少組はお辨當がすんでからは倦きた幼

兒、つかれた子供から順に自由に歸る事にいたしました。

その時分ですからお母様が皆附添つて居りますので子供の
様子を見ては自由に歸つて頂きました。四日からお辨當を
持つて來たのは五人でした、翌日は七人位になり丁度一週
間の中に三人を除いて他の子供は皆よろこんでお辨當を持
つて來る様になり二週間の後には幼稚園全體揃つてお辨當
になりました。

一年保育組は三、四日位は一人か二人位午前中で御歸り
するのがありましたが五日目頃からは組全體一時半まで遊

ぶ様になりました。

この経験で別に無理がある様にも思はれませす大變よか
つたに存じますので今年も、又その様にいたすつもりで御
座います。

小學校並に修了兒との連絡について

小學校との連絡については二月號で白根姉が御話し下さ
つて居りますが、全く同感で、私共も随分考へさせられて
居り、入學前一ヶ月の保育には白根姉と同じ方法を取つて
居ります。

その外一年との連絡を取る爲に、幼稚園の生活を幾分
も理解していただくために、今までは三月三日のお節句、
五月の節句、七夕、クリスマス、等に一年生全體をお招き
いたし幼稚園の催しに、お互が楽しい時を過す事にいたし
幼兒の製作したお土産を差し上げる事が年中行事になつて
居ります、然しこれは幼稚園が努力をすればこそ出来る事
で、一年の方から働きかけて下さる事は更にありません。

小學校の方からも今少し幼稚園に歩み寄つて下さつてもい
ゝのではないかと思はれてなりません。

そこで今年始めての試みで御座いますが、三月中旬校長
 ご一年の幼稚園組の先生ご保母ごの座談會を開く事になつ
 て居ります。これも來年度からは一學期に一回づゝ受持の
 先生ご保母ごの話し合が必要ではないかごさえ思つて居り
 ます。そして受持ちの先生の御理解を願つた上で一年生に
 入學後一ヶ月に一度、十日ごか二十五日、ごか日を定めて
 その日の中の數時間を幼稚園の子ども一緒に遊ばせ度いの

□

東京市西櫻小學校附屬幼稚園

福 島 春 子

若草の萌へ陽炎のチラ／＼する麗かな四月には、慈愛深
 きお父様やお母様の暖い腕から離れて新しく幼稚園にお這
 りになるエンゼルの様なお子様方を、私共は愛ご熱ごをも
 つてお迎へいたしお預りいたすのであります。そして愈々
 黎明の如き輝しい新學期が私共の前に展開いたします。此
 の時期はお子様にごつては一大エポックを劃する事になり
 はしないでせうか。そして私共保母は毎年のこまながら、

で御座います、或る時はお茶におせんべい位でお互の發表
 會をしたり、人形芝居を見せたり、映畫を見せたり、方法
 としては種々あるご思れます。そんな事を續けて見たなら
 ば少しは私共の目的に近づいて行けるものご信じます。珍
 らしくもない事ばかり長々ご申述べさせて載きました誠
 に恥しう存じますが何卒皆様の御教示をあふぎ度いご存じま
 す。

より新らしい希望ご信念をもつて理想の保育への實現に向
 つて邁進すべく誓ふのであります。

さて本文に移りますがプランご申しますご大層大袈裟に
 聞えますが結局皆様のおやりになるのを眞似てゐるに過ぎ
 ません。

新學期の始めは保母はあたかもお客様をお迎へする時の
 マチーチャの様な氣持ちで出来るだけ環境の整理をいた

し、遊具も取り揃へ、保育室も子供のお部屋らしく手技製作品でも御座いましたら竝べて置き度いと思ひます。

次に園児の心身状況しらべ竝びに家庭状況調べを詳細にいたしました、それを幼児ミ照し合わせ、幼児ミ家庭ミがびつたりミ、結びついて連想出来る様注意いたします。かつて兄弟の在園してゐた子供又は本校に在學してゐる兄弟のある場合には同一家庭に生活してゐる關係上その園児の個性を比較的早くキャッチする事が出来ます。勿論諸兄弟ミ云へ共も性格の相違してゐるものは随分ありますが、類似の點を必ず発見し得るものであるミ信じております。

あゝあのお子さんのお妹さんですか、ミ聞いただけでも、その幼児の性質の大半をまだ入園式がすんだ許りの日でも知り得た様な氣がいたします。そんな時には私共も朗かな氣持ちで幼児に接するこゝが出来得ませう。此の點からしても同一の園に永く居るこゝは、保育の上幾多の便宜をあたへるものミ信じます。そんなわけで家庭の状況の調査並びに幼児の心身状況の調査を出来るかぎり詳細にしたいミ新學期を迎へる時に切に感じる事であります。

次に保母は前述の調べの外に名前だけのカードを作りまして一日二日三日ミ其の日の幼児の心身の狀態を絶えず注意いたしましたして出来るだけ多く、幼児の動作、感じなりを記入いたしておきます。一週間たちましても居るのか居ないのかわからない子供、即ち何一つ記入事項のない子供があまりまして「誰々さんにすまないわね」ミ話合ふこゝすら御座いますので、今年は努めて豊富に記入いたし、そんな子供をない様にして終了の時迄變化の比較をしてみたいミ思ひます。今迄申上げました事は保母の心の用意の一端にすぎません。

昨日までは家庭の生活、今日からは幼稚園生活で御座いますから、つゝめてなだらかに急激の變化をあたへない様に、たゞお友達が氣勢ある、遊ぶのに工合がよい、お玩具もあるし、お砂場もある、面白いミころだミ感じさせ度いのであります。それで始めの一、二週間位は殆んミ團體的集團的の取り扱ひはしない様に、自由に室内でしたり、お積木、繪本、獨樂、小石竝べ、毬つき、お人形、兎に餌をやつたり、家鴨をお池にはなして、眺めたりいたしますが、

さうしても新らしい生活ですし、お付添ひが大勢おりますので、そわ／＼して落著きがなく、長くその遊びが繼續いたしませんから、グループになつては、セルロイドの風車、日の丸の旗、輪つなぎ、首飾り、兜等をつくりましておみやげにしたり、又その合間々々にはお話、お唱歌、お遊戯なごをします。之等のものはなるべく幼児の生活に近いもの（桃太郎、舌切雀、夕やけこやけ）から初めます。

四、五月頃までの保育豫定細目を並べ様かとも存じましたが、今迄本誌で御發表遊ばした方々も大差御座いませんで此れは別に申上げません。

たゞ觀察の方ではお蠶だけは手数をかけましても是非共いたし度いと思ひます。

小さいものを眺める習慣だん／＼大きくなる變化、小さい蠶に桑をやつて可愛がる情愛、都會の子供の缺けやすい氣持ちを補ふ爲には最も大切で適當のものに信じます。今年は蛾の出した後の繭にソーダを入れて煮ましてよく洗ひ一緒にのばして眞綿を作つてみやうも存じます。昨日も雪解けの後に一寸ミ頭をもちあげた蔭葉を眺めながら桑の芽が

出やしないか、昨年しまつて置いた蠶卵紙は大丈夫かしらんと思ひました。一寸こゝで申上げたいことは蠶卵紙をわざ／＼こつておかなくても附屬幼稚園ですも小學校の理科の材料として飼つて居ります内の少しを頂けばよさそうなものをこそ思ひになりませうがそれは卵を生みますところを幼児にみせます事（天をう行儀よく丸の中に並べます）何年も私共の手で桑も十分に與へる事が出來ず、温度も計らず野生的に育つてきたお蠶さんは環境の變化の精でせうか。大そう丈夫で幼児が時々手の平にのせて御氣嫌を伺つても病氣にもならず相當に立派な繭をいたします。そんな工合で趣味の養蠶でしたら此の方が丈夫でよいと思ひます、

次にレコードに因る保育方法もチョット考へさせられます。ラヂオ體操は近頃めつきり一般的に愛好される様になりましたので園でもかつてこのレコードをかけた事がありました。その時幼児は勿論の事お付添ひの人達迄が氣持のよいリズムに心をうばはれて一、二、三の號令の掛聲諸共に元氣よく體操をした事がありました、それは大家庭のまご

いのように非常に愉快な場面であり、愛宕山下の幼稚園にふさわしい光景だ。私はひそかに微笑みました。そんなわけでは非共、これを新學期に利用してみたいと思ひます。

四月は暖なシーズだけにお始の前に多くの幼児はお付添ひの方と一緒に來られます。それで毎朝登園時間前二十分間位例の輕快な體操のレコードをかけようと思ひます。幼兒等はラヂオでお馴染のものであるだけに、校門から保育室に這入つて來る時、屹度うき／＼した氣持で足ざりも軽く自然にレコードのリズムに合せるが如くそのレコードの周圍を三々五々取り巻きませう。そしてレコードのリズムにあわして全幼兒が自ら手を足を首を振り動かす事です。むろんその時は保母も一緒になつてしますが、子供本位でありますから小學校の様に體操本位に強制的にするのではない事は云ふまでもありません。

けれども泣き蟲の子供やはにかみやの子供なきには、保母は手を取つて「さあ皆さんでませうよ、むらつしやい」と云つて誘ひをかけます。これは幼兒を園に馴らす上に於て付添ひの人々から一日も早く解放させられて幼兒だけの

世界にする上に效果的である。共に横の連鎖つまり子供同志の親しみを増さしめる上に於て幾分でも効果があるのではないかと思ひます。みんなお子供さんでも始めの内は多少知らない世界に來た。云ふ恐怖心に似た感じを若干もつてゐるものですから。

それから朝の二十分間にかけるレコードは體操のみはかぎりません。云ひますのは體操云ふよりも情操の陶冶リズムの生活が目的であるのですから、童謡……それに近頃では軍歌も結構でせう、然し一方に偏しない様に注意しなければなりません。

この點レコードの選擇には大いに留意する必要があります。

行事の中では身體検査、園外保育二三回等々であります。私共の園では設立當時より園外保育を特徴としております。幼兒の身體の發達を考へます時、小學校内の幼稚園は屋外のお遊戯場がせまく、のんびりミ土に楽しむ事が出來ませんので特に設立下さいました方々が御盡力なされまして年十回位いたすことになつております。勿論近所の小

公園等に出かけますのはそのうちでは御座いません、車や

電車で遠出をするので御座います。でも四月五月は幼児が
 馴染みませんのでお付添ひに出かけます關係上、明治神宮、上
 野動物園、小石川植物園で御座います。要するに新學期は
 家庭的の自然さをもつて變化のない様にご申しましたも新
 入園児にござりましては同時に習慣態度を作る出發點で御座
 いますからはじめのうちに善導してゆき度いと思ひます。

これは保姆の幼児心理研究と經驗手腕によつて成功する

□

もので御座います。

二月號掲載の倉橋先生のいろ／＼の子供の御講話は大變
 嬉しく拜見いたしました。

さりさめもない様なこゝを長々ご申述べました事をお許
 し下さい。幸にしてこの拙き文が少しでも裨益せられるこ
 ころがあれば望外の至で御座います。

何卒この上にも御指導御鞭撻のほごをおねがひ、いた
 して擱筆いたします。

東京市京橋昭和幼稚園 白根美智子

三月は學校の師走。

四月は學校の正月。

* * *

一年、或は二年三年を我が子とも弟妹とも甥姪ともいつ
 くしみ育て、きた可愛い子供達を、愈々小學校へ送り出す
 日——子供達の健かな成育を親共心に心から壽ぎながら

も、近く年に別れを惜しむにも似た淡い悲しみを感じさせ
 られる修了式を大晦日に例へるならば、それにかはる何十
 かの新らしい顔を迎へる喜びの入園式こそは、私共教育者
 にのみ恵まれた心の元旦でも申しませうか。

百八の除夜の鐘の音に過ぎしひき、せを顧み、麗かな初
 日を仰いで、新らしき年の計を誓ふのと同じ氣持で、私は

子供達を送り迎へる度毎に、しみじみ過去を反省し「此の年こそはかくありたし」深く心に期するのでございます。

今年もまた目前に迫つた修了式を控へ、色々考へさせられる事が一ぱいでございます。でも、かうした事は個人的な事が多く、書き記してもいはゞ日記の様な物で、自分一人の心覺えに過ぎず、公開する價値あるものとも思はれませんけれど、編輯部からのお勧めで、思ひつきます儘を書かせていただく事に致しました。

* * *

一、あの時は急に忙がしい用事が出来たから。

あの時は氣分が悪かつたから。

あの時は一寸心配事があつたから。

あの時はうつかり他の事を考へてゐるたから。

等々、後から自分自身に對する色々な言譯はありませうけれど、私共無意識に、あの純真な子供達に、ふきしてつれない素振をし、つれない言葉と興へて自ら心を傷める事があまりに多くはなかつたでせうか。

「いつも優しい先生の、あの瞬間に於ける冷たさ、鋭さ

は？」

子供心に感じさせる事があつたしたら随分怖ろしい事だと思ひます。

保母の氣まぐれな、感情本位の言語動作が、ぎんやかに幼い魂を怯やかし、知らず知らずの中に神經質にし、やがては人の顔色を讀む様な悲しい子供を作り上げてしまふ結果になるであらう事を私共は一日も、否一刻も忘れてはならないと思ひます。

保母はどの瞬間にも笑顔でありたいもの。

正面の姿からも、横姿からも、後姿からも、又斜の姿からも、皆一様に暖い春の陽を感じさせる様でありたいもの。

ミ、つくづく思ひます。殊に、神經質な都會の子供を扱ひます時に、一層此の感が深くございます。

二、偏愛——純真な魂を對象とする教育、殊に幼児保育に於て、こんな言葉は口にする事さへ許されぬ事でございますけれど、多數の子供の中には、何處で何をしてゐても

直ぐ眼につく子ミ、その反對に、氣をつけて見詰めてゐる積りでも、何故かはつきり記憶に残らない子供ミでございます。私共は、善い意味に於て、或は悪い意味に於て、所謂目立つ子供にのみ心を捕はれて、可もなく、不可もなしミ云つた様な比較的平凡な子供は兎角注意を怠る事が多くはございませんでせうか。

始終一齊保育ばかりしてゐますミ、そんな心配は少いかも知れませんが、私の様に分團作業を主に致して居りますミ、さうしてもこんな傾向が多く、時としてあまりにも心届かぬ自分を、本當に申譯なく思ふのでございませう。

出来れば、一人一人の子供に就いて、その日一日の行動を正確に記録出来る程の、濃やかなミ申しませうか、まめやかなミ申しませうか、行届いた心遣ひが欲しいミ、しみじみ思ひます。

その爲、かねがね保母同志互に指名し合つては、指名された子供のその日の生活を記録して行きたいミ話しあつて居りましたが、愈々四月から實行致したいミ存じて居ります。

三、幼い魂にしつくり觸れ得たミ感ずる喜びこそは私共にまつて無上のものでございます。たミへその日の保育がみんなに豫定通り出来ても、何かしら物足らぬ日があります。

反對に何も出来なくても本當にみち足りた思ひで過す日があります。

此の一年ごちらが多かつたか——ミ思ひます時、氣ばかりいそがしくて少しもしつくりしない日が、案外多かつたのを嘆かすには居られません。

本當に充實した一日であつたミ思へば、○、

その反對の日は △、

八年度の日誌には△印が消えて無くなる様にミ希つて居ります。

四、大人は、殊に都會人は、あまりに自然の神祕に馴れ過ぎて、無關心であり過ぎはしないでせうか。自然の偉大さに驚く心、感謝する心から、大きな愛も生れませう、宗教も生れませう。

冬だ冬だと思つてゐる中に、もう霜柱を立上げて露のこ
うが出てゐる。漸く水がぬるみ初めたと思ふ頃には、もう
岸邊に青い草の芽が伸びてゐる。

倉橋先生から春待日記をつける様にこのお話を伺ひまし
てから數年、いつも思ひ出します頃は春になつてしまつて
居りますので、今年こそはこ意氣込んで居りましたのに、
此の間の日曜にもう摘草が出来たに聞いて、「又駄目か」こ
がつかり致しました。

時候の移り變りすら氣つかずにゐて、何の觀察ぞ。こ自
ら悔りたくなります。私達はもつこく自然に親しまなけ
ればならないと思ひます。

次に幼稚園として八年度にしたいと思つて居ります事
は、

一、肝油服用の結果調査

本年一月から園醫の勧めに従ひまして、希望兒のみに毎
日肝油を與へて居りますが、肝油服用に就きましては、近
頃種々な學説がございます、或人は、健康體の者が肝油
を亂用すればビタミン過剩症を起し、却て害があること

へ申して居りますので、色々な方面から研究調査してみ
たいと思つて居りますが、既に御研究なさいました方々の御
指導を仰ぐ事が出来ましたら誠に幸甚存じます。

二、公開保育をして互に研究批評しあひたひこと。

私の園では今迄年數回の保護者會を、或時は個人懇談に
或時は講話に、ある時は作品展覽會に、又或時は遊戯會に
こ色々かへて見て參りましたが、去る二月始めて公開保育
を致しまして、保護者を招いて、半日を通常通り保育して
見て戴きましたところ、非常に喜ばれまして、良き試、有
意義な催し感謝されましたので、今後は度々催したいと存
じて居りますが、更に進んでは、非の中の蛙式自己流保育
の弊に陥らぬ様に、幾つかの園が聯合して代るべく公開保
育をし、互に指導しあつて進みたいと希つて居ります。

「今年はおかありたい」

こ思ふ事は此の他にも多々ございますけれども、あまり最
初の抱負が多過ぎます、切角の案も却て計畫倒れに終る
おそれがございますので、八年度は先づ以上の様な事に特
に力を入れ、心を注ぎたいと存じて居ります。

新入幼児のむかへ方



東京市 大和郷幼稚園 坂内 め っ

子供の心が漸く手にはいつて何のこだはりも無くなつた。子供同志もよく遊び各々自分を發揮して愉快此上もなく進んで居る。歸る時間を恨めしがり歸すに世話の焼ける時期になつた、と思ふこともう小學校に送り込まねばならぬ。小學校もそれ／＼決定して一安心と思ふ間もなく新入園児を迎へる心構をせねばならぬ。一年中の最も骨の折れる時である。其心構にするにはいろ／＼の注意が要ると思ふが一言でいひつくすならば誠心誠意全力を擧げて新人園児の事を考へる事である技巧や經驗で實績を擧げる事は出来ない。其誠心誠意のほごばしる所を具體的に申すならば

一、新入園児の姓名をよく覚えて置く事

お茶の水のやうに入園を許可する前に檢定をする處では、入園前に顔を見ておくの三十幾度も姓名を書きつけるのこで姓名も記憶すれば顔も覚えるので、入園第一日にすぐ名を呼ばれる人が三分の二はあるのであるが、檢定しない園ではそれは出来ない。せめて姓名を暗記しておいて二三日の中には名を見ずに呼び度いものである。自分の受持の組の幼児の姓名を二三日で覚える事が出来ないでは保姆の資格がないといつてもよい位である。尙全園の幼児の名を全體の先生がすぐ覚えるやうにしたいものである。これ

が親しみを感じさせる一大秘訣である。

専門學校を卒業した人でさへ「誰先生は熱心に教へて下さるよい先生だが名前をちつとも覚えて下さらないので淋しい」といひ或人は「入學當時はからず名を呼ばれそれ以來其先生に格別心服した」といふ例は少くないのである。況して幼い子供がはじめて他人のなかに出て生活するので不安を感じて居るに相違ないのであるから、親しみを以て迎へるのが何よりの事である。

二、帽子かけ、靴置場、子供の持物を知つて置く事

快く幼児を玄關に迎へても、扱て靴の置場はごご、帽子かけはごご、ミ探して居るやうでは間に合はぬばかりか幼児を落膽させる。又子供が帽子が見えませんミ訴へていつた時に、みんな帽子でしたかミ問ひ返されては悲しくなるにきまつて居る。先生は何んでも知つて居るミ信頼させねばならぬ。

三、話題を豊かに持つて居る事

幼児の見界は極めて狭いのであるから話題の範圍が極めて狭い。其内でよく話題を見つけねばならぬ、幼児の一番

好む話題は自分の両親の事、兄弟の事、家族の事、自分の生れた月日、自分の近所の事、自分の好む遊び等で自分に關係ある事ごもである。これ等も出来る限り一人一人について覚えておく必要がある。學籍簿を書くにも空には書かず心して書いて置いて話題の助けさせねばならぬ。

保姆さして就職して初めの事、さうしても口を利かぬお嬢さんがあつた。何を聞いても口を利かぬ。いろ／＼苦心して見たが效がない、暫くしてふミ氣がついて其人の弟の事について話しかけた處ハツキリミ、武雄さんが、ミ話しはじめた。其時のうれしさ、それ以來口を利く人になつた。年中口を利かないといふ人はないが、弟さんの話が其時期を早めた事は事實である。

こうした通俗的な事を早く知る事、覺えたら忘れぬ事は一見つまらぬ事のやうであるが實際生活には必要な事である。定義や定理はよく覺えられるが常識的の事に疎い人もある。又定義や定理は覺えられぬ、覺えてもすぐ忘れるが常識的の事なら忘れない、といふ人もある。學者になるには前者でなければならぬが實際家殊に保姆さなるには後者

の方が適任のやうに思はれる。けれども常識にのみ走つて學理を好まず自己の向上をはからない人では實績をあげる事の出来ない事は申すまでもない。

四、入園第一日快い第一印象を與へる事

園内外の設備を快くし玩具なども豊富に備へておく事は勿論であるが、はじめて知らぬ所に連れて來られた幼児には、其第一日にそんなものに迄心が向かぬ。快いこいふ感じを與へ得たら大成功である。それには何として人より受ける感じが第一である、職員全部小使に至るまで全身全意新入園児を歓迎する事にのみ没頭しなければならぬ。誠意は以心傳心、自ら通ずるものである。先生の方は精一つばいにつくしても一人一人の幼児の受ける感じは其何十分一のにしか當らない事を常に忘れてはならない。

五、玩具の種類を考へる事

同一年齡の幼児を入園させる事が理想的であるが、多くの園では一年保育も二年保育も三年保育も同時に希望して來るのが常である。親の考もあり兄弟揃つてこいふ事もあつて拒む事がむづかしい。又實際一年保育の必要も感ぜら

るゝのである。このやうに年齢に差あれば喜ぶ玩具にも差がある筈である。三年保育は何こいつても子供であるから普通家庭で用ゐるやうな玩具、人形動物の人形ぜんまい仕掛の動く玩具コマ等で動かす事も獨では出來ず大人にして貰つて眺めて居る程度である。一年保育は主として自分が使用して遊ぶもの毬風船たゝみ紙大積木等であるが、室内の遊よりは室外の運動を好むので粹登、砂場、鬼ごこ等が最も喜ばれる。二年保育にありては大きい方は一年保育に近く小さい方は三年保育に近い。積木は最も喜ばれるものでも有がたいと思はせられる。繪本は誰にも喜ばれ好かれるものであるが年齢によつて種類を考へ内容を調べねばならない。これ等の玩具は常に整理して置いて登園すぐに遊びつかれるやうにしておかねばならぬ。陳列に止つてはならぬ。裝飾用のものは又別の目的があるのでそれに相當したものを選ぶべきである。

以上のやうに年齢によつて考へてよいのであるが、年齢よりも入園前の境遇によつて遊び方に大差があるものである。一般に注意深過ぎる家庭では家の内ではばかり遊ばせて

大人が相手になり子供同志遊ばせないから、友達を遊ばへば好む玩具の種類も異なるもので概して心身共に弱いのである。これを急に強くする事は困難であるが、早く見抜いてはじめは其子供の好むやうにし、追々誘導して心身を強くするやうに心掛けねばならぬ。

六、早く友だちを見つけて上げる事

友だちさへ出来れば幼稚園が面白くなり、好きになり我が物として遊ぶ事が出来るのである。それには、第一早く性質を見抜く事、第二早く其境遇を知る事である。子供同志共鳴して居るやうな點が少しでも見出されたら先生は其楔をなつて早く結びつける事、一人子や大人のなかでばかり遊ばせて貰つて友達を遊んだ事のない子供は同じ様な境遇に通つた性質の人を見出し先生も其仲間に入つて遊ばせる事である。そうするには附添よりはなれない人は暫く忍んで後まはしにするより外はないと思ふ。

七、遊びの種類を多く知つて居る事

遊べない子供を遊ばせるには何をさせたらよいか早く其方法に氣がつかねばならぬ。遊ばせる遊びの種類を澤山知

つて居つてもこの場合何が適當か考へるまなく出て來ない。詮方なく面白い事をして遊びませうとか繪本を讀みませう位になつて仕舞ふ事が多い。むづかつて居る子供があつたらすぐ其邊に居る二三人の人を集めて手を出させ「さのおせんべいが焼けたかな」先生が大童になつて本氣であれば心機一轉するのである。少し人數の多い場合には大きい組の子供の間に入れて「花一もんめ」、「夜か晝か」、「さくらく」などをさせる夢中で遊ぶやうになる。其他雨の日、人數の多少、午前午後等異つた場合に適當な遊びを思つくには、先づ遊びの種類を澤山心得て置かねばならぬ。

八、附添よりはなれぬ子供は氣長に取扱ふ事

附添よりはなして保育するのが理想ではあるが、何しろ満三歳や四歳の子供が急激に變つた生活をするのであるからはなれないのも無理のない事である。其はなれないのも我儘の爲め、氣が弱く心細い爲めとある事を見抜かねばならぬ。こうした子供には第一親に根氣負けをせぬやう注意せねばならぬ。先生はあの人もこの人も心配して居

るからまだ紛れもすれぎ、親は我が子獨りを見守るのであるから氣が揉めて堪らず根氣負けして退園させる例も少くない。そんなにはなれぬ人でも二三月の後まではなれぬ人はないし自分から遊べぬ人はないのであるが、其始は何時になつたら、手にはいるかと思ふ氣が氣でなく早く早くあせつて遂ひ特別の手段を講ずるやうになるのであるが、特別の子供は例外として一般の子供は氣長に時期を待つて其間に時期をはづさず、特別に時間と意を用ひて手に入れる事に留意せねばならぬ。其時期を見透すのが一大手腕である。

かくて數々の注意を以て園児を迎へた上は、幼稚園の使

命を家庭の方にもよく理解して貰はねばならぬ。其内で一番大事な事は保育といふ事は幼稚園の玄關を入るま直ぐに始まり、玄關より送り出すまで間斷なくつゞくものである事、従つて幼稚園内はごこでも保育の場合であつて廊下でも庭の隅でも等しく保育室である事を心得て貰う事である。こもすれば所謂保育室、だけを教場の如く考へて大事な運動場や遊戯室なきを子守の場所のやうに誤解される事のあるのは迷惑至極な事である。これ畢竟世間一般の人が幼稚園といふものを理解して居ない爲めである。一人でも多くの理解ある人を得る事は又我等の大切な使命であらねばならぬと思ふのである。



東京市番町小學校附屬幼稚園

檜 山

京

手續、入園希望者は、願書用紙を幼稚園から受取り各欄へ記入の上麴町區役所で照會の捺印を受けたものを幼稚園に出し、園から定められた日に校醫の健康診断を受けて入園許可といふ事になります、トラホーム、濕疹其他傳染性

の病氣は治療をすゝめ全快してから入園を許可する事になつて居ります、なほ區役所の照會といふのは年齢證明の爲なので区内に籍のない者は證明出来ない事になります。

保護者會、右の手續がすみます三月の中に新入園児保

護者會を開き(當日は成る可く幼児を同伴せずに)園長から保育の方針保母の紹介、規則を保護者心得の大意を語られ、毎日の所持品を(手拭、上靴、鼻紙、お辨當、箸、湯呑、歯ブラシ)預る品(鉢、クレイヨン、自由畫帖)に就て説明し、幼児調査表を渡してこれまでの家庭に於ける幼児の生活状態を記入して入園式の日を受持へ渡す様にし、なほこれまでの習慣に就て特に家庭から希望される注意があれば申出られる様にします。

入園式、保護者同伴ですが、園長からも此の日は主として幼児に對してのお話で、直に組を分けて室、手洗、携帶品置等を指示します。その次の日には前學期から在園の幼児が、新しい友達を迎へて唱歌や遊戯を見せ「みんなで仲よくあそびませう」と約束をします。

以上はほんの形式の事で、此外に新しく幼児を迎へる私共としては多くの仕事に大切な心構へがあります。運動具、玩具(飯事道具、人形、小積木、コマ砂場用具等)椅子等の器具の修繕、窓硝子塗板等室内の營繕、新しい玩具砂場の砂の補充、カーテンの洗濯、樂器の調律等丁度家庭で新年

を迎へる爲の年の暮の仕度と同様です。

叔私共はそんな心構へで幼児を迎へたらよいでせうか。既に兄や姉が幼稚園へ行つて居り、時々は自分も送り迎へのお供をして「いよく、今度は自分も」こいふのは幼児も私共もお互に顔見知りこいふ心易さがあるのですが初入園の幼児達は、そのお母様から、お祖母様から何こいはれ、その自由な想像で、そんな幼稚園を描いて來るでせう。云て何十人も幼児の想像を追つて居たら際限がありません。たゞ幼児の一人一人の想像を各自の家庭生活から俄に變化した生活に入つた爲めに幼児が、物にさわられたイヤギンチャクや龜のやうに自分を閉ぢこめてしまふ事がないように、ほごけたままの、心易さを持たせたいと思ひます。室の飾りも美しい人形もいゝでせうが、先づ私共としては子供を知る事、せめて名前だけでも、そして出来るなら家庭で呼びなれてゐたそのままに、お家で「定子」を「サアチャン」と呼んで居たら、追々は「定子さん」になるようにして、まづ第一日はこみに改つて名を呼び上る時でなく一寸した會話の時、よびこめる時なきに、お母様から呼び

なれた呼ばれ方をされた時は、幼児にうつかり「チーお母ちゃん」云ひ出す機會を、又さうした心持を與へはしないでせうか、一時に五、六十人の名前を覺えるのはなかなかですが學生時代の暗記試験のつもりで、自分の受持した幼児の名だけは四月一日までに早く覺えてしまふ事、そしてあらゆる機會に顔名を一致して覺えるように努力する事。

次に私達は、まづ幼児のよき友達であり度い、こゝの友達の意味は幼児の理解者同情者であつて同時に保護者であります。これは新學期に於て特にかうあり度いと思ふのであります。これは新學期にはなくてよいさか又は友達といふ事を「幼児の機嫌をこる」といふ事に解釋したら大した間違ひ



新入兒の迎へ方に就て御たづねにあづかりあゝもう直に四月！、古い幼兒を一學年に送りますのにあれもこれも考へて居りますこゝが一しほあたらしい様な氣持で、今

になります。

よくなか／＼口をきかない幼兒がまづき、始は友達同志である事を發見しますが、心易くなりにくい幼兒には、丁度よい友達を作て道が同じ方面なら往復を一緒にするさか、家庭でも一緒に遊ぶさかいふ事をすゝめるのもこれは心構へより方法になりますが、心構へのうちに含ませてもよいかと思ひます。

一口に云へば幼兒に、心易さの感じを與へるに同時にこちらではあらゆる方法で幼兒を理解する事。その爲には私達が歸途に二つ道があるなら、今度は入た幼兒の家の方を通過、路傍であそぶ幼兒の姿に接し「また明日ね」といふのも、ほんのさゝいな心構の表れです。

横濱小學校附屬幼稚園

坂 口 圭

更のように過し一年が省みられる次第でございます。

さて新入兒の迎へ方ご申しましても、取り立てて申上る様なこゝもいたして居りませむがおたづねのまゝに御答へ

だけを申上ます。

園の性質上入園希望者の内から選出して入園させるさいふこごが、鳥渡面倒な立場に御座いますので、目下の所では、入園中申込順によりて大體入園させる事として居り、三月の末に入園許可の通知を發送いたします。

迎へる準備をしましては、三月の末に職員會を開きまして、入園の時配布いたします、「家庭及幼児の状況調査用紙、通園上の心得」の内容につき昨年度のものゝ効果を反省打合せ決定し印刷に附して置きます、これと同時に新しいお友達を歓迎する意味に於て在園幼児に手傳はせて新入兒の爲にお土産を用意いたします。

入園式の當日には當園の保育の方針をはなし領解を得るごごもに今までの家庭に於ける保育状況を保姆に申出でられる様に希望いたします。大體以上申述べました様な方法で新入兒を迎へて居りますが左に御参考までに本年度の幼



兒及家庭の状況調査の項目を御知らせいたします。

幼兒及び家庭の状況調査

- 幼兒氏名 保護者氏名
- 生年月日 現住所及び本籍
- 種痘年月 職業
- 現住所 幼兒との關係
- 同一家庭内に居る人々 父母祖父母及び年齢、兄弟姉妹、雇入男女其他
- 本校に在學せる兄弟
- 電話番號
- 保育上の希望條項
- 既往の疾病及びよくかゝる病氣
- 睡眠時間 就寢 起牀 時時
- 食物の好嫌 種類
- 性癖 よいと思はるゝ點 悪いと思はるゝ點
- 如何なる遊びを好むか
- 主として育ちし地
- 其他

大阪市立御津幼稚園

大道 てる

昨年迄は満四歳兒百二十名を收容して、是れに居残つて居る満五歳兒を加へて二百四十名といふ大家族でしたが、本市都市計畫による御堂筋線擴張のために、當部内の人家約百二十三十戸の立除きが本年度中に實施されましたので、自然入園兒の減少を豫想したものですから、今年から満三歳兒の收容を計畫して募集致しました。其結果は意外にも十七八名の剩員を見るに至り是亦毎年の苦勞を今年も味はふことになりました。

偕當園では募集から入園迄を左の方法で致して居ります。

1、入園募集期間 一月九日乃至同月末日迄、方法として
は廣告を園門脇の掲示板に貼り出すだけであります。殆
ど部内の希望者は一週間足らずの間に申込済みとなるの
が例になつて居ります。

2、健康診断

入園願書が出揃ひましたらそれを各町別にして、三月のはじめに一週間の豫定で園醫の健康診断を致します。皮膚病、トラホーム、百日咳、濕疹其他傳染性疾患及び、

團體的共同生活に不適當なる體質及び體格の子供は、母の了解をえて全快後に入園させる事にし健康兒は當然入園致します。

3、入園許可の通知と家庭狀況調

健康診断の結果は許可の通知と同時に次の様な家庭狀況調への印刷物を送つて、細大洩らさず記入の上送り届けていただきます。

入園前家庭狀況調

幼兒氏名

御家族は何人ですか誰と誰

雇入は？ 男 人
女 人

祖父母の健否及び年齢 祖父 歳
祖母 歳

父母の年齢及び學歷 父 歳 卒業學校 父
母 歳 卒業學校 母

保護者の生年月日

職業 副業

御子様の出生地

お住居の位置(表通か横町か同居か等)

お父様は御酒を召し上りますか毎日何の位

御家族の娯樂は何ですか殊にお父様は
お母様は

御家庭に於ける近隣のお友達に

お子様のお世話に主として何方がなさいますか

御家庭では何方が一番嚴格ですか

誰れが一番お子様を可愛がられますか

誰れが一番好かれますか

恐はい方はありませんか

御職業が子供の躰の上に何んな影響がありますか

召し使ひの人とよくお遊びになりますか

お家では誰れと主にお遊びになりますか

召し使ひの人を何んなに取扱はれますか

御住居の附近に子供の教育上(心身の)悪いと思はれる事物はあ
りませんか、あれば何んな事です。

朝は何時にお目醒めになりますか

夜は何時にお寝みですか

熟睡なさいますか、それともよくうは言をいふたりおびえたり

なさいますか

寢方は仰むけですか、うつむけですか

夜中小便に何度起きられますか、又起こされますか

寢小便はありませんか

目が醒めた時の機嫌は宜しいか
午睡をなさいますか、何時間位

朝飯は機嫌よく召し上りますか何碗位

一番お好きな副食物は何ですか、好き嫌いはありませんか

間食では何が一番好きですか

一日何回位間食をなさいますか

お錢をお持せになりますか、一日に何の位お遣ひになりますか

滋養強壯劑の様なものを上げてをられますか、何を?

牛乳は何の位

何を一番怖はがられますか

又何を一番愛されますか

室内遊びと室外遊びと何方を好かれますか

何んな遊びが一番好きですか

お子様の長所と思はれる點は?

又悪い癖は何んな事ですか

只今身體に障りはありませんか、あれば何處ですか

幼稚園に對して御希望があれば御遠慮なく記して下さい

大阪市立御津幼稚園

保護者殿

4、組別と受持

入園する子供が確定しましたら、是れを年齢別に一組三十人平均に組別致します。そして同時に受持保姆を定めましてしみます。保姆は學年末と學年始の事務を一緒に執る事にして新學年に對する心の準備を致します。是れは年度末になつて急に受持を定めるよりも色々の方面に於て大層有意義であるに存じます。それから四月に入るまで直ぐ

5、母子揃つて幼稚園に

來ていただきます。そして既に届けられて居る家庭狀況調べについて、今一應質問を試みつゝお母さんや子供にお話を致します。此の間に紙面に現はれた以外のよい參考資料を與へられます。此の日幼稚園の園則や入園後の心得書其他幼稚園に對する概念を與へるに足る印刷物をお渡しするに共に、胸間に吊る組分と名前を書いた圓形の札をお渡しします。そして

6、幼稚園で一定せる保育用品

を買つて戴きます。

7、保護者會

描方帖、彩色帖、クレオン、鋏、お稽古箱、帽子、靴、帽章、幼稚園マーク、幼児チームマーク等であります。

一應取調べが済むと次には保護者會を開いて、幼稚園の任務や幼稚園と家庭との連絡や其他の希望を申上げ、又お母さん達からも遠慮なく幼稚園に對する希望や注文を伺ふことにして居ります。而して先づ子供達を幼稚園に預ける迄に、家庭として母として幼稚園に對する概念を作つておいて頂くことにして居ります。特に此の際注意致しますことは、先生即ち保姆といふものゝ子供に對する概念であります。家庭によつては、先生は怖いもの、と言つた風に子供に宣傳して居る家があります。是れは誠に誤まれたる先生の利用法で、結果は家庭も幼稚園も拭はれぬ損失をするのが落ちでございます。昨年中途入園を許した子供にさうしたのがありまして、私はさうく其子供に憎まれて仕舞ひました。全く何うして機嫌を取らうとしても駄目でした。お母様も私の顔を見るに恐縮して仕舞つて、本當に考へ違ひを致しまして申譯御

座いません』と言つて居られました。唯今ではやつこ物を言つても返事をしてくれるやうになりました。一時は顔を見ても泣いたものです。

8. 入園式(四月七、八日頃)

愈々入園式をする迄には保姆は色々の準備を致します。帳簿や書類の整理は勿論、家庭状況調べを何度も繰り返して、三人で話し合つた時の事を思ひ返してA子B子に對する理解を成るべく多く持つ様に努めます。これが明日の保育をするのに一番大切なことだと思ひ居るからでございます。

それから保育室の裝飾(おもちゃ、繪本、額等)子供の机や椅子、帽子外套掛、下駄箱等に子供に理解出来る程度の名札ミ目印をなし、何時子供が入つて來ても自分の場所が分る様に、準備をしておきます。

それから年長組の子供に蝶や風車の手技を造つて貰つて、此の日の舊幼児から新入幼児への贈物に致します。幼稚園からのお土産は、紅白のお饅頭で初めて社會人として家庭から幼稚園さういふ共同生活の門に入る其首

途を祝福しての贈物なのでございます。

當日は早朝から受持保姆は子供と同じ圓形の徽章を胸に掲げて、門に附近に待つて居ります。そしてお母さんに手を引かれて入つて來る子供に逸早く呼びかけつゝ迎へます。(勿論自分の受持以外の子供にでも誰れ彼れの差別はありません)此の幼稚園なり先生に對する第一印象によつて大方は子供の心を捕らへ得ます。それは子供の胸に吊るされた名札の効果です、若し〳〵さかあなたさか赤い洋服を着た子ださか言つて居ては永久に親しみを持てるものではありません。的確に自分の名を呼ばれるさ子供はすつかり先生のものになつて仕舞ふのが普通で御座います。併し中には何うしてもお母さんや附添人の手から離れかねるのも五分の一や、六分の一はありますが、大體に於て一週間位で附添はぬ様に約束して居ります。先づ一日に二三人宛は馴れて参りまして程なく幼稚園生活の楽しさが子供に分つて來ます。最後に數人何うしても氣むづかしいのが御座います。

入園後約一ヶ月間の保姆の心遣ひは並大抵ではありません

ん。併し日一日に酬いられて行く樂しさも亦、吾々保母にのみ與へられる喜びであらうに存せられます。去年よりも今年、今年よりも來年、子供の迎へ方にもなつて



方にも色々工夫の研究が積まれて、最善に向はなければならぬと心掛けて居ります、是れが私達の第一任務であり責任であるに存じます。

渡 部 ね よ

毎年く繰りかへされる事であつても同じ様になやまされる時期になりました。この時にあたつて私共の特に考へておかねばならない點は新入園児が各々みんな氣持ちで入園して來たかといふ事であります。幼兒の入園前の生活は大體

1、幼稚園に親しみを持つてゐる者

2、全々團體生活を知らぬ者

3、一人子にて又近所の子供も遊んだ事のない子供

4、個人的に偏屈な性質を持つた者

等々に分けて考へる事が出來ます。

こに角團體生活といふものゝ味を知らず、しかも保育の意義を知らない保護者達からは學校生活と同様にいろ／＼云

ひ含められて來る幼兒もかなり御座います。幼いながらも幼兒等の精神的緊張は大したものだらうと思ひますのでこれを受取る保母は一日も早く幼兒等の精神からこの緊張味を取り去つてやらねばなりません。故にごく細いところへ注意が必要です。わかり切つた事の様です書き上げて見ますならば、

1、入園當初は幼兒の登園前に必ず玄關で待ちうけて笑顔で迎へる事。

2、下駄箱、帽子掛、等の所持品の置場がすぐわかる様に特別の注意をして用意しておく事。

3、便所の場所入口等もごくわかり易く、又きれいにしておく事。

4、保姆は幼児の顔いろ其の他の様子に始終氣をつけて困つた時、淋しそうな時、悲しそうな時、便所に行きたそうな時、身體の具合のわるい時等泣き出されない前に見付けられる様に心がまへをしておく事。

5、個人的の遊びより次第に團體的の遊びを多くし、なるべく大勢の幼児、廣い場所に保姆の氣くばり目くばりのミダク様にしておく事。

以上は何の事はない様ですけれぎなか／＼行ひにくい時間も御座いますのでつぎめてこれらには注意して居たいと思つて居ります。ここに幼児が入園してから一週間か十日位の間は幼児の氣持のごくかはりやすい時でいろ／＼の事故も起りますので四月中は保姆の心の目はより一層見開いてるなければなりません。したがつて保育の方針も以上の様な事を考へて計畫して行きます。入園當初は組別に保育するよりも全體的に取り扱つた方がすべてに都合よい様に思はれます。手のかゝらぬ幼児等は舊園児が主になつて大いに遊んでくれますので、この間に特別の幼児の取扱ひが充分に出來て、かへつて普通の保育に早く入れる様に思は

れます。そして保育の内容も家庭生活其のまゝの延長でなければならぬと思ひます。私共は腹案として各項目の保育事項は豫定はしておきますけれぎ方法に於ては全々ある種の型を取り去つてきこまでも家庭生活其のまゝの延長として之を取り扱つております。そして幼児等が入園前に抱いてゐた不安を一掃せしめて、嬉しさ樂しさを一日／＼意味はせて一日も早く團體生活に馴れさせる事です。

保育事項の具體的な例を二三書き上げます。

(一) 新入園児の顔合せ(入園當初より約一週間)

年少組の(新入)幼児は家にかへれば未だお母さんのオッバイもさわり度い程の時代、ここに一人ではかなりの家にも遊びに行けない様な幼児が多いので、すいぶん不安そうに見受けられますので、この淋しさ、不安さをまきらす爲には、又幼稚園さいふものを特別の場でないさいふ事を知らせるには家庭で今までしておつた遊びも同様に保育室の遊びを考へてやります。遊び道具も家で使用してゐた時と同じ様に自由に持てる様、室内室外の遊具は特別に用意して

おかねばなりません。そして一時も早くお友達が出来る様に舊園児を利用して團體的の遊びを多く取ります。カゴメ、ウズマキ、カクレンボ、ゾイ／＼、ジコロバシ、丸鬼、今年ノボタン、デン／＼、蟲、さくら／＼、汽車ごっこ、電車ごっこ、マ、ゴト等はよほぎ偏屈の性質でないかぎり喜んですぐ入れます。幼児の登園からしばらくこれ等の遊びをつづけた後、全園児の顔合せをする爲にはおかへりの十五分位は一ヶ所に集つて舊園児のお唱歌をきいたりお遊戯を見たり、又時には一緒に入れてみたり、小グループにしてお話をきひたりする時をつくります。そして最後のおかへの時はじめて組分けに取り扱つてもよい様に思ひますが、私共はやつぱり全體的に取り扱つて居ります。

年長組の幼児の取り扱ひは充分考へてかゝらねばなりません。一ヶ年ですつかり團體生活にもなれ、新入園児をむかへてお兄様、お姉様気分にしたつて大いに自重してゐる時ですからこの折を利用していろ／＼の良習慣がつけられる様、やさしみ、思ひやり、等の心持ちもおのづこ助長して行き度いと思ひます。まゝごこのお母様、お父様、お兄様、

お姉様は新入園児をよく世話します。ごこに年少組の幼児は喜んで世話されて居ります。そしてこの氣持は自然に他の折にも表はれ、二三學期になつてからも時々これらの美しい心持の表はれを見受けては一人ほゝえまされる事が御座いました。しかし大抵の場合は、新入園児にかまけて等閑になり勝ちな爲亂暴になつたり、落ちつきのない幼児をつくつたりこのましくない様子も表はれますので充分な注意が必要であります。

(二)動物園見物(同じく入園當初)

大小の積木を使用して舊園児に動物園を造らせます。勿論保姆も一緒に仲間に入つて動物の標本二十餘種をそれぞれおちつかせます。新入園児はお友達に連れられて見物にまゐります。動物園の諸係員は全部舊園児によつて行ひます。其他この遊びよりいろ／＼の方面に進展さすは次にのべますお花見遊びの時と同様で御座いますので略します。

(三)お花見(四月中旬約一週間)

年少組は園外のお花見に出かけるには足の運びが無理に思ひますので園内に於てのお花見を考へて見ました、園庭

に櫻の花があれば申分御座いませんがなきには保育室の黒板に一面のお花を咲かせるもよし、又園庭のまごか一部を選んで良いと思ひます。大體の骨組みを具體的に申し上げますならば

まづ大勢のお客様を集めます。

あつまつたお客をエブロンにつながせてそのまゝ汽車に、電車に、自動車に仕立てゝもよし(唱歌によつて)又は九人乗り、三十人乗り等のシートを利用して尙大喜びでせう。時には長椅子をお花見列車にしてもよし、これらは舊園兒のお特意とするところでありませう(大積木で停留場を造るまごか、ステーションを造るまごか、トンネルを造るまごか幼児等で次第に遊びを發展させて行かれる性質のものと思ひます)。

運轉手、車掌等皆始めのうちには舊園兒又は年長組幼児によつて進めて行くのが好都合です。そして途中に二三ヶ所の驛を止まり止まり列車を進めてお花見の場所につきます(すべてお唱歌がこもなひます)

お花の下でお遊戯まごかお唱歌、お話等に打ち興じやがて

お辨當さいいたします、(舊園兒によつて食事を設けておいてもよし、又臨時ごしらへのパンやお菓子屋、おだんごや等設けます)積木をあわせてちり紙をはさんだサンドウキツチ、板チョコ、キャラメル其他おまゝごこの道具をかりあつめての食堂遊び等は舊園兒ここに女兒の最も特意とするところであります)

其他幼児等の發案になる遊びの數々をすまして後お土産を持つておかへりさいいたします。その時も途中にいろくのお店を設ける事は舊園兒が今までやつて來た遊びを其のまゝ進展させて全園兒を動かす事になります、(繪本を集めた本屋、遊具を使つたり前學期の賣のこりのおもちや、造りかけの製作品を臨時に利用したおもちや屋、切り抜き應用のお花やさん、等々)

おかへりも勿論前と同じ様に汽車、自動車をかりて各々家に落ちつきます(まゝごこのお家)

以上は大體の骨組みで勿論保姆の計畫によりますが遊び其のものは殆んど幼児等で發展させてくれると思ひます、そして時間の都合、幼児の氣持ちの具合等でいくらかも變

更、伸縮出来ると思ひますので園外につれ出す暇もなく一週間を過ぎてしまひませう。この頃の保育時間はせいぜい三時間足らずと思ひますので幼児は登園してからかへるまで「淋しい」さか「我家」さかの感じを忘れて過されませう。

特別偏屈な性質でこの遊びに入れない者は他の保母によつて個人的に相手をして居てもらふ事も出来るし、仲間に入れない者も一人で喜んでながめておられませう、ごちらにしても一人の保母で相當に大勢の幼児が相手に出来ますので個人的に取り扱はねばならない幼児の多い場合にも大變都合よいと思ひますその他お花にかぎらず、日曜日のピクニック、動物園行き、汐干がり、お芝居見物等こんな具合に大した用意の必要もなく行ふ事が出来ます、始終同じ様に唱歌、遊戯、手技、……等を取り立てゝある種の形に入れた保育こそ無理が起りやすく、かへつて新學期のなやみを多くするものだと思ひます。遊びの中で唱歌もやれるし遊戯も出来るし、手技製作は必要に迫られて行ふ様になります(大抵の場合は舊園兒中心新入園兒が形をミゝのへてのお遊戯をきらつて仲間に入らなかつたり、はにかん

でお唱歌を唄はなかつたりする者があるのにお花の下で一人でお友達と一緒におぎつたり唄つたりするのを見受けては大いに考へさせられてまゐりました。たゞこの間に私共の始終考へておかねばならない事は、遊びの片よらぬ事、さなるべく大勢の仲間同志を造つてやる事だと思ひます。又前にも申しました様に保母が中心ではあるけれども子供等同志の活動が充分出来る様仕組んで保母はなるべく多方面へ立ち働かれる様、常にも増して多忙な事を覺悟してかゝらねばなりません、しかしこの遊びをのみ込んだ幼児等は二三學期を過して氣持ちよく進んで行かれる様に思はれます。その爲めに遊びの方面の發展上には少しの心配もなく且つ製作を結びついて大きな仕事に入りやすい様考へて居ります。

四、お誕生祝ひ(月末)

四月中に誕生した幼児を全園兒でお祝ひします、お祝ひされる者もお祝をする者も共にお土産の交換をいたします。

五、人形芝居

人形芝居は幼児の心理的發達状態から考へて年齢によつて分ける必要があります(三組位)。

1、新入園兒年少組

お家で聞くお話もごく簡單なものか、又は家庭によつては一寸もこうした事にふれて來ない幼児もありますのでこの頃はお話も少し複雑なお話ミか長いお話しでは聞いておられませんし、又お話しが見へなければ理解もおそい様に思はれます。したがつて人形芝居的一幕物はこの時期の幼兒にはごく適してゐる様に思はれます。出て來る人物もあまり大勢でなく、人物ミ人物ミの言葉が重ならない様に動作をはつきりミ表はしながら言葉短かくゆつくり話する必要があります勿論材料は私共で選んで脚色しなければなりません。二三例を上げて見ます。

1、兎ミかめ(一幕物)

ロ、雀おぎり(お唱歌又はレコードによつて三羽位の雀でおぎらせませす)。

ハ、ダンス(他の人形芝居に使用する人形を利用してレコードでおぎらせませす)

等

2、新入園兒年長組

大抵の場合お話には興味を持ち相當の理解力も出來て居りますし、ここに初めて見る人形芝居は大喜びです。お話しの間き方、お芝居の見方等、一二次なれますミ舊園兒ミ同じ様に取り扱つてよいと思ひます、材料は、

1、年少組に見せるもの

ロ、小兎ミライオン(三幕)

ハ、赤づきん(四幕)

ニ、天狗退治(三幕)

等

3、舊園兒は人形芝居の面白さを充分知つており、ここに今までは年少組ミして取り扱はれてまゐりましたので、材料は新入園兒ミ同じ物を取りまぜて一回に二つ位づゝ見せませす。

1、新入園兒に見せしもの

ロ、桃太郎

等

人形芝居の脚本については又別の機會にゆづります。

以上は編輯部から申し送られた題目によつて書かせていたゞきましたが、うまくあてはまつて居ない點が多く御座います。ここに長々しく書きつらねて紙面を戴き過ぎた事をおわび申して筆を止めませす。

春期に於ける幼児の保健

醫學博士 岡田道一

(1) 麻疹

三千世界に子を持つた親の心は皆一つ、其の愛は汲めども盡きない。其の育児に對する保姆の愛も共に齊しく切實なものがある。然るに僅かの不注意から子供を弱く育てあげたり、又間違つた衛生注意を拂ふ幼稚園なきが澤山ある。それは實に親の身に取つては後で取り返しの付かない残念な事である。凡そ世に毒なものを喰ふなといふて、吐るのは世上の親の一般の心であるが、然も其毒が表面に現はれて居るものばかりでなく、また一般に知られてゐないで毒なものが澤山ある。然しそれ等は最近科學の進歩と共に研究されて居るから、親の方でも大層注意するやうになつて來たのは幼児のためにも非常に仕合せな次第である。麟つて考へるに、未だ衛生の事については、廣く理解されて居らぬ。そして實行が伴はれてゐない事は遺憾に堪へぬ次第である。

麻疹は一種の觸接病である。これは一種の細菌から起る病氣で、患者の血液中、粘膜分泌物中、又は涙液中に本病の誘起者が存在してゐる。そして大氣に由り或は物體に由つて周圍に蔓延してそれで恐らくは呼吸道から身體に侵入するものであらう。本病の誘起者は抵抗力なく、身體の外に於ては甚だ速に其作用を失ふものである。麻疹に對する感受性は不平等で且つ非常に大きなものである。殆んど一切の人體は幼児の時此の病を經過する。然し稀に十五歳以上になつて冒されることもある。然し又一生涯之に免かれる人もある。

先づ潜伏期が經過するに、麻疹の前兆が現はれて來るから之に注意することが必要である。即ち最初眼に炎症を起して頗る羞明を覺えて涙液を出だし次で鼻感冒状態を呈し

て激しく咳嗽を發する。特に固有ミすべきは、頬部粘膜にコブリク氏斑點ミ稱して所謂白色の小點が現はれて來るこゝである。其後二乃至三日後には發疹が現はれる。之は大きな而も不規則な光澤のない斑點で、耳の周圍から始まり、上方から下方に向つて全身に蔓延する。それから二三日經過するに、發疹は褪色して黃褐色になり皮膚は糠枇様に落屑するのである。

それで麻疹は大人に重く、幼兒には軽いから、是非子供の中に此疾患に罹らして免病性を得るようなきに、わざわざ麻疹患者に接近させる非文明極まる人がある。頗る之は危険なので、實際、幸運にも此疾病に罹らないで一生を終る人が随分あるのであるから、附近に麻疹患者が居る場合出來得る限り幼兒を其附近に出すこゝを禁ずるこゝである。それで年齢が少なければ少ない程、重いのであるから特に豫防に注意せねばならぬ。

(2) 今頃から幼兒の齒が痛み出す

幼兒の中に齒牙に對する注意をするこゝは、保健上最も大切なこゝである。多くの親達は齒はさうせ抜け變るものであるからなきの考へを持つて、打捨て、置くが之れは大

なる誤で、乳齒の中に齶齒を癒さないに、永久齒になつてから齶齒は治らないものである。

そこで齶齒の原因は何んであるか、それは酸の豊富な食物、又豊富な砂糖分を含んだ食物を與へたり、餘り熱した食物、齒牙を刺戟する冷水ミか、氷の咀嚼の如きは一大原因を與ふるものである。例へ健康に見えても、一年に二度は必ず齒牙の診察を齒科醫に乞ふ事が必要である。故に幼兒の齒に對する手入即ち齒を磨くこゝは二三歳より實行させねばならぬ。齒刷牙は餘り軟かくないもので、形の少なものを選ぶに共に齒を磨いた後は口腔を含糊するこゝを習慣付けて戴き度いものである。

(3) 春は幼兒の運動シーズン

幼兒の骨格ミ身體の抵抗力の増進は、自然に行ふこゝの運動遊戯に重大なる關係がある。此の時期に於て、幼兒は初めて運動が盛んになつて來る。先づ子供の年齢ミ運動ミが適合するやうに注意するこゝ。なるべく全身運動になるものを選び、局部的運動にならぬやうにするこゝ。子供の體質を考へて弱いものは弱いもの、やうに運動に輕重の度をつけるこゝ。運動は空腹のミき満腹のミきを避けるこ

こ。運動のときの衣服は輕便なこ。體を締めつけぬこ。男女によつて運動の種類を變へるのがよろしい。運動過度にならぬやう。増加した脈搏が二十分以上になつても常態に戻らぬ時又體重が續いて減少し、心臟、呼吸器にも異常が起るこ。心臟病、貧血、肺疾患等のものは其程度によりて、運動を省くか又輕度に行ふこ。運動の場合に子供の精神に強く興奮を與へぬやう注意するこが必要である。

そこで幼児の親達は注意して幼児が愉快にして元氣に遊び且躍り廻る機會ミ場所ミを豊富に與へてやらねばならぬ先づ發育上から觀て四歳から六歳までは身長が増加が著しいもので、體重の増加はまだ左程激しくなつて來ない。又筋肉の發育も不十分であり、腦の發育は尙進行中にある。

これ等の點を考へて、遊戯ミしては日當りのよい新鮮な空氣中で自由の遊技にまかすがよい。殊に虛弱で直ぐ泣き出すやうなものは日光に親しませるこが何によりて、雨天でない限りは戶外の空氣のよい所に出して、俗に云ふ日向ぼつこをさして遊ばせるのが、發育を促すのに最もよいのである。

(4) 日光が幼児に及ぼす影響

幼児の發育上日光の力を籍りるこは特に必要であるこは言を俟たないこである。春先から夏にかけて日光が身體の黴菌を殺すこが一層よく出来るのこ、總て悪い影響を及ぼす根本を打ちくだくのは、明らかな事實である。日光に身體を曝すこ、新陳代謝が盛んになつて、炭酸瓦斯を排泄する。そして顔色は櫻色になつて、消化器の動きを良くするから、食欲が進んで來る。日光に親むこの出來ない幼児は榮養が衰へ顔色は蒼白こなつて貧血するやうに、著るしく相違を來すものである。次に日光が幼児に及ぼす效果に就いて少しく述べやうと思ふ。

日光が強い程殺菌力の強いのは當然なこである。それ故高山に於ては日光の殺菌作用も強いわけで、日光が細菌に著るしい作用を及ぼすのは、細菌の中にある水が、日光作用に對して酸化して了ふからである。それ故これがため死滅すこ云ふこになるのである。日光は皮膚を透す力を持つてゐるものであるから、直接内臟血液等に影響する。そして皮膚の血管も膨脹する。それで皮膚の血管が膨脹するこいふこ腦又は内臟から澤山の血液を引きよせるこになる。そして赤血球は酸素を吸収して大きくなるから

自然日陰にゐるまきよりも餘分に炭酸瓦斯を吐き出すのである。又炭酸瓦斯ばかりでなく、一般排泄作用が盛んになつて来る。日光が適當に作用すれば身體の組織を發育させるこゝが出来る。又骨の發育にも大變關係がある。尙孿病の如きは骨の發育が不十分であるから全身に著るしい畸形を現はすものである。これが日光によつてメキ／＼良くなつて来るものである。又日光によつて皮膚が厚くなるのも事實で、皮膚は紅くなつて皮膚の毛細管は擴り、結締織が増して来るから皮膚は厚くなつて来る。それ故皮膚が蒼くなつた子供が日光に親しむと、皮膚は厚くなつて、靜脈の青筋なき目立たぬやうになつて、健康美を添へて来るのである。又毛髪を曝すも、非常に毛の發育がよくなつて、従つて頭腦をよくするこゝになるのである。

幼児の皮膚の色は榮養から關係するもので丈夫によく育つた幼児の顔色は櫻色をして居るのが本當なのであるが、即我日本の子供の顔色は櫻色に稍々黄味を帯びてゐる。そして全身も櫻色で多少黄味を帯びてゐるのが、我日本の幼児の健康美である。又幼児の頬の色合は無論榮養状態からも關係するが、體育からも大關係がある。そして又戶外の

空氣や太陽の光線に曝されるか、曝されなかに依つて影響がある。

それで幼児の健康上、續いて室内ばかりに止めておくも、美しい顔色が消えて了ふが、又戶外に出して、日光に親しますと、元通りに美しい色に戻るものである。幼児にこつて特に注意を要するのは、太陽の直射光線によつて皮膚を晒すこゝである。殊に春季から太陽の光線は、幼児の軟かい皮膚に烈しい影響を與へる。往々一時間も日光に晒す時は、皮膚に赤い斑点や火傷をした時のやうに、水泡が出来ることがある。それ故日光に晒すときは注意して、少し赤味を帯びて來たと思つたら、直射光線さへ避ければよい。健康な子供であつても、光線から受ける影響は種々で一樣に話すこゝは出来ない。殊に虛弱な子供さか、榮養状態の悪い子供は一層の注意が大切である。直射光線が眼に入るも、眼底が焼けて、視力がなくなる。之れは醫學で治すこゝが出来ない。それ故にまぶしくても避けるこゝの出來ない幼児を寢せておく等は危険であるから注意しなくてはならない。



四月の観察

東京女高師附屬小學校主事

堀

七

藏

一、観察せしむべきもの

四月、幼児に観察させる植物材料は甚だ豊富である。さくらを始めとして、つばきでもつばじでも、またあぶらなでも、皆四月綺麗な花が咲くのである。四月の草花として幼児の目に入るものは何でも観察させるがよい。すみれでもたんぽぽでも、またつくしでもふきのこうでも幼児が容易に観察し得るものは成るべく観察の材料として取入れるがよい。もよほの花もすもよほの花も、またぼけの花も面白い観察材料になる。

四月に観察せしむべき動物材料も亦少くない。殊にもんしうてふ、あけはのてふなぎは幼児が観察するに適し、ま

たつばめやすいめをも観察させるもよい。おたまじやくしを飼育させるもよい。

二、さくら

一、さくらを観察させるならば、さくらの幹がどんなになつてゐるか、さくらの若葉はどんなにのびるか、さくらの花はどんなになつてゐるか、さくらの花がちるまきの有様なきを観察させるがよい。しかしさくらにどんな種類があるかなきを説明することもそれは無益である。

二、さくらの幹枝は堅く丈夫で、その皮は茶色である。

細き枝の皮は滑で、その所々に横に小さき切目の如き所がある。太き幹、枝の皮は凹凸が多くして粗きここがあり、

又滑なるこきがある。滑なる皮は横に剥取り易い」こきなきは観察させるこきが出来るミ申分がない。しかし説明するが如きこきは禁物である。

三、「さくら」は冬の間葉がなく、春暖くなるミ、若葉及び花を生ずるものである。若葉は細き枝の所々から少し伸出でた若枝に幾つかづ、著き、初めは左右兩半相重つてゐる。若枝の本には數多の相重れる小さき鱗の如きものである。これは冬の間固く閉ぢて、その中に極めて小さき若枝若葉を包んでゐたものである。葉の柄には二つの蜜を出す球があつて、よく蜂なぎが蜜を吸ふためにさくら、の幹枝に匍つてゐる」。是等の事項も幼兒が注意して観察する様に導くこきはよい。然し教師が進んで説明すべき事ではない。

四、「さくら」の花は細長い柄の先に著いてゐる。其柄は幾つかづ、集つて細き枝の所々に著き、其本には數多の相重れる小さき鱗の如きものがある。之も冬の間固く閉ぢて、其中に極めて小さき蕾を包んで保護してゐたものである。さくら、の花にはがくが五つに分れてゐる。がくは柄の先に續いて茶色の筒形の所があつて、その先が茶色の三角形のものが五枚外に方に向つて出でゐる。この五枚を萼とい

ふのである。萼の内側には白色又は稍、淡紅色を帯びた橢圓形又は圓形の花鱗が五枚ある。そして花鱗は萼ミ互ひ違ひに並び、その先に小さき切込がある。また花鱗の内側には多くの細き絲の如きものがあつて、その先きは小さき囊をなし、これから黄色の粉を出す。この絲の如きものが雄蕊である。そして花鱗ミ雄蕊ミは花の本の筒形の所に著いてゐる。この筒形の所を縦に裂き開いて見るミ、その底に著いて雄蕊より稍、太いものが一本ある。この本は丸く膨れ、先は稍、平つたくして粘つてゐるがこれは雌蕊である」。さくら、の花を観察して以上の如きは仲々幼兒に觀察出來ない。しかし幼兒に花鱗や萼、また雌蕊雄蕊なきの名稱は授けなくとも、さくら、の花を出来るだけよく觀察させ、是等のものを數へたり、その色や形やなきを比較させるこきは至極望ましいこきである。

また「花の本の筒形の所には水の如きものが少し溜つてゐる。これを嘗めるミ味が甘いので蜜であるこき」が分る。またさくら、の花は「三日見ぬ間の櫻かな」であるが、花が開いた後は暫くにして花鱗は一枚づゝ散り落ち、次に萼ミ雄蕊ミは花の本の筒形の所に著いたまま、離れ落ち雌蕊の本の

膨れた所が次第に成長して果實となる。是等のこもも観察させるに越したこはない。

五、さくらの咲いてゐる所に幼児を遊ばせて、さくらの花が満開の情景を大觀させるもよいし、さくらの花がひろく散る有様の眺めさせるも面白い。はざくらもよい觀察の材料となる。

三、つばき

一、つばきの花も葉も幼児の遊び材料となり、觀察の對照にもなる。ほたつこ落ちたつばきの花を紐に通して花輪を作る事が出来れば面白いし、またつばきの葉を巻いて一端を押つぶして筒にして吹くこも出来るこも申分がない。

二、つばきは冬の間も葉がある。葉は細き枝に互ひ違ひに著き、厚く堅く橢圓形で先が尖り、縁は鋸の齒の如くなつてゐる。葉の表面は濃綠色で光澤があり、裏面は淡綠色である。是等のこもは幼児でもつばきの葉を手にして容易に認識し得るこもである。

三、つばきは春花が開く。花は細き枝に著き、大きく殆ど柄がない。萼は綠色で、凡そ五枚より成る。花瓣も凡そ

五枚ある。然し萼と花瓣との區別ははつきりしてゐない。花瓣は厚く形圓く、其本は少しく相合してゐる。普通のつばきは花瓣は赤色であるがいろ／＼の色のつばきも少くない。

つばきの雄蕊は甚だ多くして、その外側のもは本の方と相合して筒形をなし、その本は花瓣の本の内側と相合してゐる。雄蕊の先の囊は黄色の粉を出す。雄蕊の筒形の所を裂き開いて見るこ花の中心には一本の雌蕊がある。雌蕊の本は太く膨れ、先は二本に分れてゐる。又この筒形の所には蜜がたまつてゐる。花が散るこきは花瓣は雄蕊と相合したまゝ離れ落ちるものである。落ちた花の中に小さい蟲が澤山蜜を吸ふため入つてゐる。つばきには雄蕊が花瓣に變化してゐるものが少くない。以上の如きこも説明せずして幼児に觀察させる工夫がありたい。

四、あぶらな

一、あぶらなの花は所謂菜の花の代表である。キャベツでも京菜の如きものでも、あぶらなの如き花が咲くのである。しかし四月畑一面の黄色な花はあぶらなの花である。

勿論幼児には、なの花で結構である。一つ／＼の菜の花を觀

察させることもよいが、一面に黄色く咲いた菜の花の情景を觀察させるがよい。そして菜の花畠をひら／＼と歩み、いろ／＼を觀察させねばならぬ。従つて幼児をさくらのさく庭に引率するが如く、菜の花が満開さいふ畠に幼児をつれ出すことが大切である。春四月天氣のよい日、保育室に幼児を閉込めて、觀察のお時間です。今日菜の花を見せませう：「なごこくすかづつてゐるやうな觀察は禁物である。

二、「菜の莖がさくらやつばきと異り軟かである。地上に直立し、高さ一メートル程あつて上の方が次第に細くなつてゐる。莖には數本の枝があつて互違ひに出て何れも斜の上の方に向ふ。

葉は二通ある。莖の下部には多くの大なる葉がある。

又枝の出づる所の直下にも一枚づゝの葉があつて、上方の葉はぎ次第に小さい。これ等の葉は平に横の方に出て、綠色で薄く軟い。葉には多くの脈があつて、中央を通れる一本の脈は殊に大きい。是等の脈は葉の下面に膨れ出てゐる。以上の如き莖や葉のことは幼児の注意をひかない所である。しかしつばき、さくらと比べて觀察させることが出来る。中分がない。まゝ遊びの材料に使はせるこゝいや

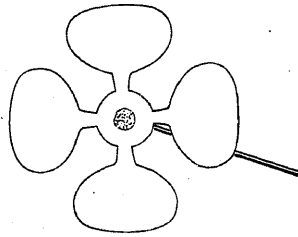
でも幼児は觀察するに相違ない。

三、「あぶら」の莖は初め甚だ短くしてその周圍に多くの葉がついてゐるのみである。春暖くなるに長く伸びて枝を分ち、上部に多くの花を生ずる。花は下の方のものが先づ開いて次第に上の方に及び、莖枝の先には次第に新しき蕾を生ずるものである。

花の本にも細長き柄がある。萼は黄綠色で四枚の舟形のものより成る。花瓣は黄色で四枚ある。萼と互違ひに並び、本の方狭く、先の方廣くして略々卵形である。雄蕊が六本あつて四本は長く、二本は短い。雄蕊の先の囊は形稍長くして縦に裂け、黄色の粉を出す。花の中心には一本の雌蕊がある。綠色で雄蕊よりも太く、その先は丸くして粘り、下部は膨れて長き囊をなしてゐる。花の底には雄蕊の間に一つづゝ狭まつて四つの丸き綠色のものがあつて蜜を出す。以上のことも出来るだけ幼児に觀察させるがよい。けれども教師が説明すべきことではない。

四、「あぶら」の花に種々の蟲が来て花に止まつて蜜を吸ひ、又花より花に飛廻る。雄蕊の出せる粉はこれに觸れる蟲に著いて運ばれ、蟲が雌蕊の先に觸るとこゝの所に著

く。かくて後、萼、花瓣、雄蕊は散落し、雌蕊は次第に成長して果實となり、その囊の中の粒は種子となる」かゝる事項を説明するこゝは禁物である。また「花は種子を生ずる爲めのもので、この爲めには雄蕊の出せる粉が雌蕊の先に著かねばならぬ。花の蜜は蟲を誘ひて雄蕊の出せる粉を雌蕊に運ばしめる用をなし、美しき花瓣は蟲を花の方に誘ふ用をなす」こゝいふ理科的



な説明は嚴禁である。

五、あぶらなの花弁が十字形になつてゐるこゝろを厚紙にて切り、中央に小孔をあけプロペラをなし、花瓣を同じ向きに多少まけるこゝろはよい風車となりプロペラの如く廻轉するものである。幼児でも出来る作業となる。

五、もんしろてふ

一、もんしろてふがあげはてふ、か、正しい名稱でなくともよい。てふくでよい。しかしてふくにもい

くあるこゝろを観察させるならば、名稱は正しく授けて置いてもよい。

てふではそのこゝろ有様をよく観察させるため、幼児を野原に引牽しててふの實際菜畑や麥畑なぎの間をこぶ様を観察させるこゝ申分がない。

またてふがこまつたこゝろはね、口を伸して蜜を吸ふこゝろなきを観察させるこゝろよい。

二、幼児はてふを挿へんとして追かけまはるが、成るべく殺させないやうにするがよい。またはねをいためないやうに注意し、てふのはねを指でなでまはして鱗粉をこらないやうにするがよい。

三、もんしろてふを見るこゝろ頭は小さく、その後方に胸を稱し頭より大なる所がある。又胸の後方に腹を稱する長い所がある。胸の頭に連なる所及び腹の胸に連なる所は細くなつてゐて、頭を胸を腹は見別け易い。これは幼児に強いて観察させるに及ばぬ。唯てふのからだはみんなであるかを観察させるだけでよい。

四、もんしろてふには四枚の大いなる白き翅がある。翅は胸の左右の稍々上方に著き、前の二枚を前翅といひ、後

の二枚を後翅といふ。前翅には各々二つの黒き紋があり、且つ翅の先が黒い。後翅には各一つの淡黒き紋がある。以上は幼兒でもてふを観察すれば分る。「翅をつまむときは指にきらくした粉が著く」こゝは幼兒にもよく分る。しかし「この粉は翅の色を現はすもので、これを取去れば翅は殆ど色なく透通りその面に數本の脈がある」こゝは強いて観察させるに及ばぬ。

「もんしろてふは四枚の翅を左右に擴げ、これを動かして飛廻る。止まるときは左右の翅を上方に立て、相接せしめる」こゝは是非観察させねばならぬ。

五、「もんしろてふには六本の脚がある。脚は胸の下側の左右に三本づゝ相對して著き、細長くして各數節より成り自由に屈伸する。脚の先には爪がある。そしてもんしろてふは物に脚の爪をかけて止まり、又脚を動かして少しく歩むこゝが出来る」。幼兒にはもんしろてふに脚が六本あるこゝを観察させ得れば上乘である。

六、「頭の左右には一つづゝ大きく丸く膨れて青色を帯びた所がある。それが眼である。また頭の前方に出でたる二本の細長くしてその先の稍々太くなれるものを觸角とい

ふ。觸角は物に觸れるこゝきこれを感じるこゝが殊に鋭い。頭の下側には細長くして卷きたるものがある。これは口にして管の形をなし、これを伸して花の蜜を吸ふものである」。幼兒にはてふにも眼があり、口があるこゝを観察し得れば澤山である。

七、「もんしろてふは春の暖き頃より多く出で、飛廻り、種々の花に止つてその蜜を吸ふ。また菜の葉の葉に止つて卵を産附ける。その卵が解ればあをむし、ミ稱する綠色の細長い蟲となり菜の葉を食するものである。

六、かへる

一、「もしかへるの卵かおたまじやくしが得られるこゝ、大きな硝子鉢なごに水を入れて飼育するがよい。屢々水を取りかへる必要がない。餌として飯粒を少量入れて置けばよい。おたまじやくしにかへるこゝからだんぐりに成長してかへるになる有様を時々観察させるがよい。おたまじやくしに脚が出来、次に前脚が出来る。おたまじやくしの間は鰓で呼吸してゐるが、前脚が出て尾が縮小するころには肺で呼吸するやうになるから、かへるののぼる石を入れて水中より出るこゝが出来るやうにして置かねばならぬ。

「エホンシャウカ」の歌曲について

福井直秋

日本教育音楽協會で編纂した新幼稚園唱歌は全部で四十曲、之を十曲づゝに分けて春の巻、夏の巻、秋の巻、冬の巻の四冊になつてゐる。標題を「エホンシャウカ」として文字や樂譜の力に乏しい園児に對し繪本を主とし、母姊や教師のために樂譜を副にした編纂法を採つたのである。子供がこの本を一寸見たゞけで歌ひたくなり、又は手に取つて見たくなるやう、即ち子供に親しみのある名前及び體裁にしてある。其の内容について見ても協會が非常に精神をこめて作つたもので、幼稚園から小學校へ入學した當初即ち一年位の兒童にまで通じて幼少な子供すべてに歌はせてよろしいものである。今其の内容に就いて少しく検討して見よう。

一、音域について

兒童の唱歌わけても幼年なもの、歌曲では音域に就いて

注意するこゝが最も重要である。子供には聲域の狭いものから順次廣いものを教へるやうに仕向けるこゝが大切で、廣い聲域にわたつて出せば出し得るのであるが、音樂的にうるはしい聲を導かうとする爲めには、さうしても狭い曲から導かねばならぬこゝは言ふまでもない。この點に於て「エホンシャウカ」には、一點へ音から二點二音までの六音で出來たものが、總數四十曲の中十六曲までも這入つてゐる。それに「オクターブ」のものが二十曲、九度のものが僅に四曲にすぎない。從來の童謡集等でこんなに音域の狭いものを多數に集めたものは、殆ど無いといつて過言ではなからう。

二、拍子について

園児の歌ふ唱歌は拍子からいへば二拍子が最も適合して居るので、それは輕快で、明るく、單純なものだからであ

る。「エホンシャウカ」には四十曲の中三十三曲が四分の二拍子、それについて四分の四拍子、四分の三拍子の二種類が僅に加はつてゐる。従来は、三拍子は小學校に於いても初年級に於て不適當として取除かれてゐたやうであり、文部省の唱歌にも三年迄には三拍子の曲は一つも入つてゐない。併し三拍子は左様なものではなく、寧ろ子供にふさしいもので、西洋の子供の唱歌にたくさん二拍子の曲が這入つてゐる。一體曲は拍子だけで難易を決定する事は出来ない。二拍子でも三拍子でも其の他何拍子でもむづかしいものもあれば容易なものもある。左様な譯のものであるから「エホンシャウカ」に三拍子の易いものを加へたのであらう。誠に然るべきことである。従来低學年に比較的多く入れられてゐた四分の四拍子を三曲しか入れず、全然かへりみられなかつた四分の三拍子を三曲入れた點から見て、確かに今までの唱歌に較べて出色のある本であると思ふ。

三、曲の長さについて

曲の長さについては、研究の價値を多分に持つてゐるのである。即ち子供の曲はなるべく短くて、聲の疲勞を少く

し注意力に餘裕を存せしめて、歌ひ終つた後でもつゝ歌ひ度いといふ感じを残す程度のものが宜しい。「エホンシャウカ」にはこの點に考量してあるこゝが能く窺はれる。即ち四十曲中八小節のものが九曲、十二小節のものが十九曲、十四小節のものが一曲、十六小節のものが十一曲といつた割合になつてゐる。而も一番長い十六小節のものに於てもその内容を内譯するに、四分の二拍子が九曲、四分の三拍子が一曲で、四分の四拍子のは「天皇陛下」だけ僅に一曲入つてゐるにすぎない。西洋では子供の歌ふ極短いものには二小節、三小節或は四五小節限りのものもある位である。

四、調子について

譜は教師が見るだけで子供に必要がないのであるから、子供の歌ふ聲域の上から考へて調子を定めてある。従つて何調が何曲なきといふ詮義だてをする必要はない。

五、音程について

音程については、成るべく子供の歌ひ易い音程を選択してあるといふ一言で盡きてゐる。然らば如何なる音程が歌ひ易くて、いかなる音程が歌ひにくいかにいふに、歌ひ易

いのが歌ひ易く、歌ひにくいのが歌ひにくいといつた方が一番簡單で且つわかり易い。我が國では從來度の廣狭によつて難易の差があるものゝやうに考へてゐたやうであるが、それは當つてゐない。オクターブでもドからドまで、ソからソまでなごは園兒にでも結構歌へるがファからファまで歌へない。又スイからスイまでは歌ひにくい。斯様に種々な相違があるので、之れを度数に依つて一律に難易を定められるものではない。斯様な點なごにも適當な注意を拂つて音程を採擇してある跡の歴然たるものゝあるのを、

「エホンシャウカ」に於て窺ふこごが出来る。

六、旋法について

子供には短旋法の曲を澤山に歌はせない方がよい。わけでも園兒なごに於てある。「エホンシャウカ」四十曲中「マゴト」唯一曲だけ短旋法であるにすぎないのは、頗る吾人の意を得てゐる。子供を軽く、明るく、愉快に生活させやうとするには、彼等の歌ひ物に留意せねばならぬので、短旋法のふさはしからぬ自明の理である。

以上の外にその細目にわたつて詮索を進むるならば尙ほ

相當に記述すべき點があるであらう。併し吾人は右に述べたやうに、「エホンシャウカ」の大體に於て從來ありふれた幼兒の唱歌に比して頗る特色異彩あるを認むるのであるが、その特色異彩ある結構な「エホンシャウカ」が、園兒の如何なる聲によつて表出され、園兒の心情に對して如何なる反影を與ふるかこごの重大なるこごに想到するときは、この機會に於て園兒の發聲に就て一言し、正しい發聲の指導に就て附言するこごの無用ならざるを思ふものである。

從來否現在でも日本の園兒の唱歌の多くは絶叫號鳴である。胸聲を張り上げて怒鳴り散らしてゐるのである。園兒は無理に苦しみながら發聲すれば、二點八音の前後までは胸聲で歌ひ切るこごの出来るもので、これが園兒の唱歌の發聲の過誤を生ずる主因をなし、園兒の持つてゐる低い方の聲から指導するこごが副因をなしてゐるのである。顔を赤らめ胸を張り上げて歌ふ様なこごは、たごへ園兒が之をなし得るこごしても、堅く禁止すべきものであるこごを茲に強く言ひ切つて置きたい。

すべて子供の持つてゐる高い方の聲から歌ふこゝを導くのが、正しい練聲の方法で良い結果を齎すのである。過去の日本の歌はせ方は反對に常に下から導いてゐた爲に、正しい良い聲さならず、唱歌の發達を妨げてゐたのである。子供の唱歌に使はれる聲は、概ね中位若しくはそれより高い方の聲が多いのであるから、それらの聲を正しくそして綺麗に出させる様に幼稚園の初めから訓練せねばならぬ。例へば最初に二點二音位を出させ、之が正しくきれいに合せたならば、順次下の方に擴げて一點へ音位までを同じ要領で出させる。ところが上の方が正しく出しても下へ下るにつれて亂暴になり易い。即ちさなるやうになり易いのであるから、こゝに教師の指導を要する點があるのである。下の方をさなる様であつたならば又高い方へ返つて、高い方の要領で下の方を出させるやうに導く、かくする事によつて上から下へ、同じ様な聲質量できれいに發聲させる事が出来るやうになれば、下から上へもきれいに上るこゝが出来来る。上の方の聲はさうしてもさなる事が出来ないから、常にこれを基準にして高い方から導くのがよろしいのである。

この練聲を誤るゝ常に高い聲は小さくなり、低い方は大きく叫ぶやうになり、上と下との均衡を失ひ唱歌でなくなつてしまふのである。一體聲の出し方は唱歌の根本をなす重要なものであるにも拘はらず、日本の現在では幼稚園でも小學校でもあまりこれに注意を拂はないで、音の高低長さへ正しければ、良いものであるかのやうに取扱はれてゐるこゝは、頗る遺憾な事である。

歌詞についてはまた他日を期して述べるこゝにする。



世界人形行脚記 (八)

——世界教育大會より歸りて——

フリーベル館社長 高 市次 郎

▽ヴエスビヤス火山へ△

ナボリの旅宿から望んだあの朦々き白煙の天に冲するヴエスビヤスへの登攀の朝八時、案内者をつれて宿を出ました。

電車からアプト式のケーブルカーに乗り換へるこゝで雨外套を貸してくれる、之れを著用に及ぶのであります。この日も亦頗る暑い。案内者はワイシャツのみであつたが、汗みぎろになつてゐて、前々號にも記した通り、伯林で雲にあつた事を想ひ出して、地中海につき出した南伊太利の暑熱には聊か面喰はざるを得ません。

しかし、流石に二三三〇メートルを待つ二重火山の圓錐峯、登るにつれて外套の衿を掻き合せる。頂上は随分寒

い。霧が朦々き襲いかゝつて咫尺も辨ぜられぬ程でありませう。一行は元氣横溢、出發にあたつて所謂お鉢巡りをする心組みでありましたが、合憎の荒天に中止して、ケーブルの中へ飛び込む。霧のために外套はすっかり濡れてゐました。ケーブルは忽ちにして降り、懸て電車をボムベイ行に乗り換へました。

▽廢趾ボムベイ△

堀り出された古のボムベイ市街。死の街ボムベイ。烈日に描き出されたその廢趾は、見渡すかぎり暑さに閉口した私だちを倚らしむべき一樹の蔭すらない。暑い、頗るあつたい。頂の毀された圓柱の併立、壊され墮ちた壁、それでも舗装した規則正しい道路、そのあたりに落ち散つた煉瓦の

一破片を手にしても、一千八百年前の爛熟した街の繁盛を偲ばせるに十分であります。

私たちは約三時間ほゞ廢趾の此所彼所を觀て廻はつたのですが、それでも、實に、街のほんの一小部分にしか過ぎないのです。以て、「死の街」ボムペイの廣さも窺はれませう。散步道があり、某家の邸宅、何々家の浴場等、中庭を圍む豪壯な構へのありし昔を偲ばせるものはその圓柱や厚い大理石の壁、更にその内部を覺しい所に掲げられた堂々たる壁畫であります。ヴェスピアス大噴火の熱砂に埋没されて二千年にも及ばうとする長年月を、昔のまゝに麗はしい色相を保つて、武勇の勳功を語る古い傳説、さては小鳥や草花に溫い愛情を寄せる織美な構圖、生の豐滿を謳歌する愉悅の情に充ちた畫面等、當時の華美な歡樂的生活を窺ひ知るこゝが出来て興味つきざるものがあります。ある家の料理場には、拵へかけたお料理や卵なごが化石の如くになつてそのまゝ發見されたと言ひます。

こゝにはバラック式の博物館風の建物があつて、種々のものが陳列されてゐましたが、鰐、羊等、當時突如こして

火山爆發による大慘害をうけたそのまゝの體勢で化石して居り、裸形の男女なごも、そのまゝの姿體で化石になつてゐます。裏街らしい所の家にも美しい色彩を以て描かれた小さい畫が壁間に掲げられてゐます。公會堂、劇場、浴場、大邸宅、商店等何れも當時の梯を偲ばせる。殊に興味を惹いたのは酒屋、挽白屋等で、石の舗道には克明に窪んだ轍の跡さへ見せてゐました。或る邸宅の玄關らしい所にはモザイクで、明瞭に卍字が畫かれてゐましたが、佛教古來からの標形、吉祥萬徳の集まれる相としての卍が、圖様の偶然的合致か、將たまた佛教が夙に此處に及んでゐたのか想像し難い。水道等も設けられてゐて、鉛がそれ／＼工作に使用されてゐたこゝも見逃がせない。

發掘された廢墟として、埃及のそれに比すれば、その廣袤は遠く及ばないが、文化的施設に於いて遙に深く且つ大規模であるこゝが窺はれました。

▽ローマへ△

秋晴れやチクタイかへてローマ入り

永遠の都ローマ、一日にして成らぬ羅馬へ行くのは、
 よく／＼邊鄙な田舎から都會へ出るいそ／＼とした心持ち
 の一行、ちよいとおめかしをして愈
 ローマ入り。

ナポリよりローマへの沿道は美し
 い果樹圃や、小丘上の白壁の住宅
 なぎ指呼しつゝ、廳て高く城塞の如
 きが蜿蜒こして建ちめぐらされてゐ
 て、ローマ近きを想はせる。聞けば
 此の城壁をめぐらせる如き高い石壁
 はローマ市へ給水される水の通路こ
 いふ。壓力の利用を知らずして、往
 時、水源と同標高の水準線を保たせ
 て水道を施設したこいふ。

停車場に下位春吉、御簾納元一、兩氏が迎へてくれまし
 て、潜在中お世話になつた事は感謝に堪えませぬ。



(一の其) 形人俗風利太伊
 の作工形人。のもためともでマーロ
 すまりあが所い白面にクックテ

▽ローマ見物△

法王の御座所ヴァチカンの
 豪壯さは既に言ひつくされてゐ
 ます。廣間や禮拜堂、畫房、博
 物館、圖書館等に區劃されてゐ
 て、その結構の宏大壯麗なここ
 は申すまでもない。そして此處
 に納められてゐる世にも稀れな
 珍品國寶は數へあけやうもあり
 ません。ヴァチカンに就いて、
 またサン・ペテロ寺院について
 語る時、畫聖ミケランジェロミ
 ラファエルの二名匠を擧げない
 こゝはない。ヴァチカンの宮殿

も此の名匠によつて建築され意匠されたもの。この宮殿に
 附屬する博物館もサン・ペテロ寺院も何れも世界第一の名
 をはづかしめぬ。寺院が現今見るが如き壯大な外觀を備へ

なる古昔を語る。なかでもかの有名な演技場、コロセオ、アンヒシヤターは恐らくはローマの最大の建造物であらうと云はれてゐます。古のローマ市民が流血に殺戮の闘争に有頂天な歡喜の叫びを送り、キリスト教徒大迫害の歴史上のエキサイト・シーンは此の巨大な建物に於いて演ぜられたのです。惡魔の牙の如く、周圍五二四メートル高さ四八メートルといふ杉大な橢圓形の建物も今や廢趾となつて、永遠にローマ帝政の暴虐を物語つてゐます。

カラ／＼の大浴場もあまりに有名なものであります。カラ／＼皇帝の大浴場としてローマ帝政の極盛期の記念物。一時に千六百人を容れ五千人の浴客を收容し得るこいふ、その規模の宏大さ、周圍一哩、赤や橙色の煉瓦で造られた周圍の壁も、さながら小山の如く峙り立つてゐて、浴槽の庭部は五分四方に厚さ二分程のタイルで敷きつめて、美しい模様モザイクに仕上げられてゐます。今から二千年も前に、斯うした工事を施し得る材料が自由に使はれたもので、文化の度合ひも窺ひ知れます。

是等は時の政府が人民の娯樂場たらしむ可く造つたもの

で、當時伊太利駐割の吉田大使は、政府が人民の投票權を贏ち得んが爲めに造つたものであらうと言はれてゐました。附屬の料理屋があり、男女の浴客の遊戯場や散歩道があり、當時の歡樂境を偲ばせてゐます。

その他スカラ山寺院の基督の血の塗られた階段、鎖寺のボールを監禁しつないだこいふ大小の鎖、基督十二の使徒の彫刻を列べた天井一面に金箔張りの聖ジョンス等、それこそ觀て歩けば際涯ない。殊にスカラ山の階段の如き、之れを登る男女は一段毎に跪坐し十字を切つて禮拜しつゝ登るさま、夫れからサンペテロ寺の巨大な銅の聖像の脚の甲なぞ、それは／＼大佛さまのそれほごに大きいものだが、日本のお賓頭盧さんの頭を撫でる如く、參詣の善男善女は此の巨像の脚を撫でゝは自分の頭や顔を撫で廻はすので、殆ど三分の一位すりへらされてゐますのも東西とも信心に變りなきを思はせました。

斯くローマは古いものばかりであつたが、伊太利統一の英帝エマヌエル二世の記念塔こそ新に出來た。——即ち一九〇〇年に起工して同一五年に竣工したもので、頗る壯大、邦

貨一千萬圓を費したさいふ立派なもの。前方に起つ馬のお腹の中に十八人の食卓をひらいて祝宴を張つたさいふ。

さて、斯うした所謂名所見物のうちに最も興味を惹いたのは、ローマより七里の郊外にあるチミ NEMI さいふ一
小湖に御簾納君ミドライヴしたこゝであります。

これはアルバノ火山の火口湖であります、その風景は幽遠さ言ふよりもいさゝか物凄ゐい感じで、最近、此の極めて小さい湖庭に、西紀前十年に造つた船二艘が、西紀後五十年まで水上に浮んでゐるが、其の後沈没して了つてゐる。さいふ、實に一千九百年前の記録が発見されたこゝです。そこで漁師達の話には船の一部の木片が時々水上に浮むので、専ら其の噂さが擴まつていきました。之れをきゝ込んだのは最も考古學的趣味の深い、今を時めくムッソリニ首相、湖底を尋ねるさい果して記録や噂に違はず巨船が埋没してゐるので、早速引き上げに著手し、湖水を排泄し、頗る大仕掛に著手して遂に最近此の二艘を引き上げました。長さ七〇メートル、幅二〇メートルの木造船で之れに銅に彫刻を施した裝飾が昔のまゝに保たれ、鐵製の舟釘は錆びて

ゐたが螺鉾が明瞭に夫れ知られる。船中に敷いたものらしい瓦もあり、船の外部には鉛を張つて釘で打ちつけてありました。一艘は湖より四五町離れた所に補強工事を施し船型に枠をつくつて之を保存し、もう一艘は現に水際にまで引き上げた所でありました。

この船型まで相應考古學上の貴重な材料なるのであらうし、今後此の地方が名所の一つに數へられよう。これは軍艦であるとも言ひますが恐らくは遊樂船ではないかと思ひます。

チミ行はその自動車料金の高價なのに驚いたが、然しローマ郊外の視察、殊に村の祭日には男女の群れ遊ぶ様に見られたのは嬉しい。

吉田大使は私達を招いていろ／＼饗應されました。デザートで

「……海外に在住してゐる子弟の教育は十分考慮すべき重要な問題で、現在の有様は誠に憂慮すべきものさ考へる」
と色々話されました。

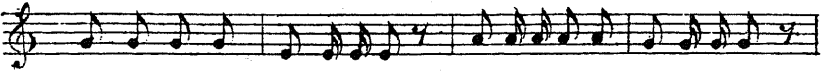
オヤスミ

(日本教育音楽協会)

♩ = 92



クンクン クンクン モウハチ ジ オトウサマ オヤスミ



オカアサマ オヤスミ オツキサマ オヤスミ

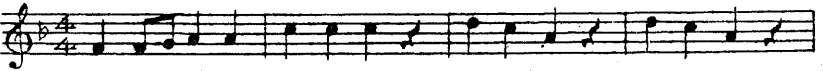


サア サバウヤモ オネンネ ネンネ

ヒヨコ

(日本教育音楽協会)

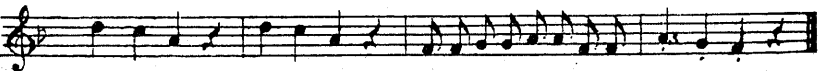
♩ = 112



ヒヨコが ハチ ビヨビヨビヨ ビヨビヨビヨ



ヒヨコ、カアサン コツコツコツ オナーカガ スイタト



ビヨビヨビヨ ビヨビヨビヨ ゴハンヲタベヨト コツコツコツ

オヤスミ

土川 五郎振

チン……兩手を體前下方にさけて左へ振る

チン……右へ振る

チンく……同じく繰返す

モウハチ……拍手二回

ジ……左手五指右手三指を竝べて體前に突き出し掌を向ふに指先を立つ、上體を少しく前に頭を左に傾けて手先をのぞき込む様にす

オトウサマ……左右生相對す

オヤスミ……おじぎをなす

オカアサマ……廻れ右して反對の隣生と相對す

オヤスミ……おじぎをなす

オツキサマ……全生正面を向き連手し左足一步前に兩手を高くあげ上を見る

オヤスミ……左足を大きく右足より後ろへ引き上體を屈し(連手のま)おじぎをなす

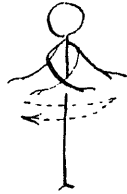
サアサ……連手のま、前へ二歩す、む

パウヤモ……後へ二歩さがる

オネン子……左足左へ上體を左に傾け兩掌を合せたる兩手を左肩の處に眠る如くす

子ン子……上體を右に傾け左足を左へ送りつゝかゞみ兩手を右肩の方へ眠る如くす

ジ チハウモ ンチンチ ンチンチ



オ
ヤ
ス
ミ

マサアカオ

ミスヤオ

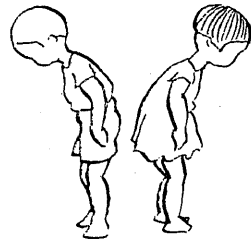
マサウトオ



ミスヤオ

マサキツオ

ミスヤオ



ネンネ

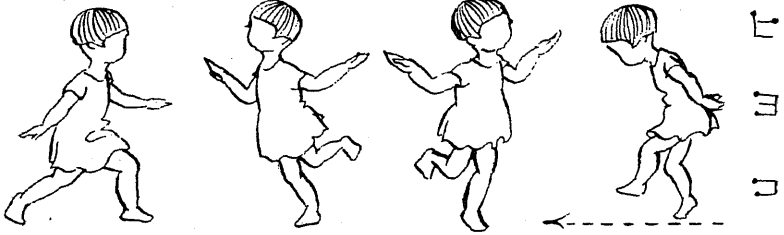
ネンネオ

モヤウバ

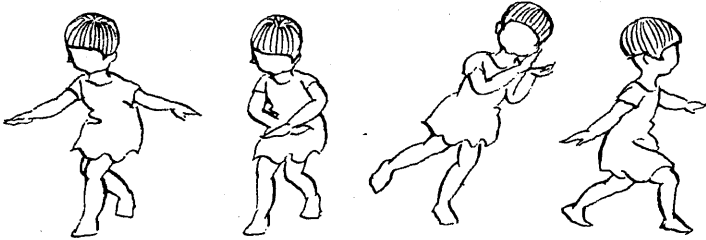
サアサ



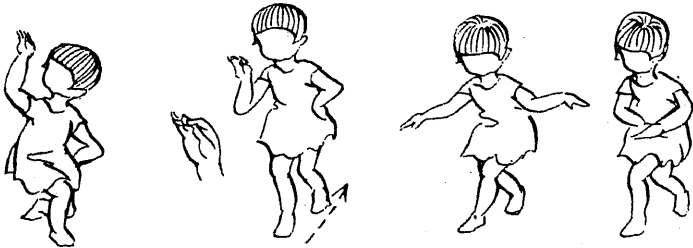
ノコヨヒ ヨピヨピヨヒ[?] ヨピヨピヨヒ デハニガコヨヒ



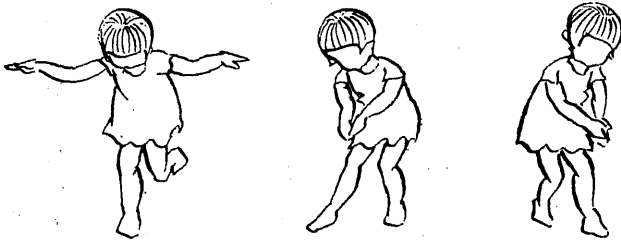
ガ カ ナ オ ッコ ッコ ッコ ンサアカ



ヨピヨピヨヒ[?] ヨピヨピヨヒ[?] トタ イス



ッコ ッコ ッコ トヨベタ ヲンハゴ



SINKITI

ヒヨコ

土川 五郎振

ヒヨコガニハデ……全生右向をなし兩手を後方にて掌を合はせ、上體を前に屈し膝を高くつまさきにて歩むこゝ三四歩

ビョビョビョ……正面を向き斜左前に左足を出し右足を後ろにあけ、兩手を左右に開き、兩脇を横腹に軽くつけ顔を全く上に向けて左足にて三回跳ぶ

ビョビョビョ……顔を右上に向けて左足を後にあけて右足にて跳ぶ

ヒヨコノ……全生左向き兩手を十分に左右に開きて左足を一步大きく摺り出す

カアサン……右足一步大きく摺り出す

コッコッコ……左足一步出し兩掌を合せたる兩手を前に突き出し頭を前に傾け顔を右に向け右足を後に伸ばし左足にて

三回

オナ……正面を向き右足を出す時兩手を腹部に交叉す

カガ……左足を一步出す時兩手を上より左右に開く

スイ……右足一步兩手を腹に交叉す

タト……左足を出す時左右に開く

ピョピョピョ……左手腰に右手指先拇指他指に嘴を作り顔の前に出し上體を前に屈して嘴の開閉をなしつつ、三歩後退す。

ピョピョピョ……かがみつゝ顔を上に向け右手にて作る嘴をだんぐりに上にあぐ

ゴハンヲ……立ちて左足を出し左手掌上にして左足に添ふて出し右掌にて打つ

タベヨト……右足を出し右掌を上へ右足に添ふて出し左掌にて打つ

コッコッコ……右足を出し兩手を左右に開き上體を前に屈し顔を下に向け左足を後にあけて右足にて跳ぶこゝ三回、

講話「いろいろの子ども」 2

倉橋惣三

氣の粗い子

(一)

前號に「氣の弱い子」こいふお話をいたしました。その反對になるものは即ち「氣の強い子」であります。心の性格の硬りした強味のある子供であります。それは眞に理想的な子供であります。今日お話をいたします「氣の粗い子」こいふのは、一寸考へます「氣の弱い子」の反對の、「氣の強い子」のやうでありますが、實はさうではない子ごもであります。心の中はやはり弱いのでありますが、外へ現はれて來るところが、誠に荒つほいのであります。その荒つほいこいふこごが、何うして起るかこ申します。要するに外から色々與へられます刺戟に對して、心が早くこれ

に興奮し易いのであります。心は靜かになから働いて來べきであります。外から與へられる色々このこに反應しまして、心にもないやうな興奮状態になり易い子供であります。これを外の言葉で申しますれば、激し易い子供、即ち易激性の子供こいふやうなこも申せます。大人の場合で申しますならば、疝癩持ちこいふやうなこごになります。或は氣の早い人こいふやうなこごにもなります。即ち何でもないこごを直に激して來まして、心にもない粗い態度を外に現はして來ます。多分さういふ場合には顔は眞赤になります。手も震へて來ませう、遂ひ亂暴な言葉も口走つて來ませう。實に靜かなしつこりした趣を失なつて終ふのであります。

さういふ疝癩の強い子供は自然その結果こしては、粗暴

にならざるを得ませぬ。粗暴いふのは詰り心にありますものが、直に手足に現はれて來まして、謂はゞ手の早い子供さいふやうなものであります。直に人に打つ突かつて行く、人を叩く、或はそこらにあるものを直に投げ付ける、随分手荒らなこごがあります。

凡て心は神經の働きから申しまするに、中へ入れて來ます方の働き、それを外へ出して來ます方の働き二つある。さうして強い健康な精神の所有者でありますならば、多少氣に入らぬこごが心の中へ入つて來しても、それを中心の中に蓄へて置くだけの力がある。蓄へて居る中にそれを自ら靜めて行くこごも出來るのであります。心の中に何か起れば直にそれが手足に現はれて激しい亂暴な振舞になるさいふのが、竟りそれ等の抑へる力が足りない譯であります。斯ういふ子供は單に亂暴をいたしますばかりでなくして、遂には段々に慘忍、ざんじん慘酷ざんこくいふやうな趣を備へて來るこごがあります。勿論普通の子供さいふにしては、そんなに心の奥底から、性質の根底から慘酷、慘忍な人間さいふ譯ではないのであります。然し段々にさういふこごをいた

して居りまするに、相手に向つて慘忍なこごを面白く覺えて來る、その面白味が一種の癖になりまして、そこまで行かなければ心が満足しないやうなこごになる、初めは唯その時その時の所謂向つ腹を立てまして、相手を打擲する、相手を蹴る、時には抓る、搔撈るさいふやうなこごだけすれば、その時の氣が濟む譯であります、先方が虐められて困つて居るところが一種の快感を此方に起させて來るやうになります、そこまでぎゆう／＼云はせなければ氣が濟まぬさいふやうな悪い癖になる譯であります。

年下の者を虐め抜く子供があります。家に居る女中さんや、召使の人々に随分しつ／＼こく虐めたりする人もあります。斯ういふのは子供のこごでありますから、本當に憎むべき慘酷性さいふのではないのでありますけれども、謂はゞさういふこごに面白味が向いて終つたさいふやうな譯合であります。單に亂暴慘忍さいふやうな外へ向つての仕向け方ばかりでなくして、これが少し意味を變へて來まするさいふに、凡ての人に向つて反抗して行くのが面白さいふやうなこごにもなります。これは唯その時の氣紛れで

むらく／＼して來て亂暴を振舞ふさいふ方よりは、少し心の中へ入り込んで來たこゝでありまして、始終誰かに向つて楯を突いて行くさいふやうなこゝに興味を感じて來るのであります。勿論子供はそんなに皆んな素直なものではありません。親は時に依ります、子供に無條件で従順服従を要求したりいたしますけれども、子供の元氣な生々した氣持としては、さう人形のやうに従順におこなしくして居るものぢやない、然しその多少強情を張り、多少云ひ付けに反いて突つ掛つて來るさいふやうなこゝも、子供らしいその時その時の心持であるならば、餘り深く憂ふべきこゝでもないのですが、それが一つの性格に近づいて來まして、反抗そのこゝを樂しむさいふやうになります。さいふも、心配をしなければならぬのであります。竟り斯ういふ種類の子供は強さうに見えて實は弱い心の持主でありますから、自分で自分の心を獨り保つて行くさいふやうなこゝがむづかしい、絶えずそこに反抗の相手を置いてそれと打突り合ひ、それと相對して居るこゝろに自己を生かして行くさいふやうなこゝになるのであります。その結果

してはあらゆるこゝに向つて一種の危險的なこゝでも申しませうか、或は大人の言葉で申しますならば革命的なこゝでも申しませうか、始終外へ打突かつて行くこゝを、その性格の習慣とするさいふ風になるのであります。さうなります、詰り誰かを捕へて相手にして喧嘩して居なければ面白くないさいふやうな風になります。事件がありましたその後で腹が立つて、そこで喧嘩をするさいふやうな位のこゝは、寧ろ子供にして當り前のこゝであります、元來が誰かを始終相手として、それに對して反抗的な態度を取つて居なければ自分じつとして居られないさいふやうな性格になりましたならば、これは誠に困るこゝであります。

普通の子もこゝしては、そこまで行くこゝは少ないのでありますけれども、その時に依りますさいふも、さういふ憂ふべきこゝもないこゝも限りませぬ。

そこでさういふ種々な現はれ方をいたしますが、これを總括して申しますさいふも、その精神の働き方は實に發作的ださいふ一つの共通點を有つて居ります。發作さいふ

のは自分で靜かに考へて自分の心の中から或る振舞、所作をするこいふのでなく、相手から仕掛けたことに唯言葉を返すやうに―響を返すやうに反撥して行く、その働きであります。そこでその結果としては、その子ぎもの實際よりも強いところが出て終ふのであります。平生はさういふ風のこは出來さうもない亂暴なこをひよつこしたりする。或は自分でも何故あんなこをしたかミ後に考へるやうなこもある。即ちその子供の本來の性格がその儘に出て來たのでなくして、外からの仕向けられ方に對して、その時その時の發作になつて現はれて來るのであります。若しも全體が發作的であるこいたしますならば、さういふ心は決して強い心ではない云はなければならぬ。發作的に生活するこいふこは、要するに自ら自己を抑へて居る働きの鈍つて居るのであります、その點に於て實に弱い云はなければならぬ。

前講に考へました「氣の弱い子供」こいふのは心を外に働き出して行くこころの、その力に於て缺けて居つたのであります。心理的に申しますならば、意志の發動能力に於て

缺けて居つたのであります。發作的な子供はさうではありませぬけれども、心で自分を抑へて行く方の力に缺けて居るのであります。心理的に申しますならば、意志の抑制作用に缺けて居るのであります。恰度大人でも酒に酔つたこいふやうな人が、如何にも景氣の好い、威勢のいゝ思ひ切つた振舞をする「なに恐ろしいものか」、「かまふものか」こいふ風に、反抗的に粗暴に種々なこをする。人も大變に強いこだ云つたりいたします。自分では酒の力で強いこをして居るこ考へたりする。能く酒の勢を籍りてさういふこをしたりする人は、それで自分が強くなつて居るのだこ思つて居るのでありますけれども、申すまでもなくそれは心の本當の働きとしては少しも強くなつて居るのではありません。アルコールの中毒に依つて精神の抑へる力が麻痺して來て、そこで自分としてはあられもない所作に出たに過ぎない。平生は腹も立ち、疝癩も起りましたが、自ら抑へる力がある爲に亂暴なこをしない。それが酒の爲にその抑制力を麻痺された結果に過ぎないのであります。酒を飲んで暴れて居る人は強さうに見えて、全く弱くなつ

て居る最も著しい例であります、子供の場合に於て氣荒らな子供といふものも、例へばさう云つた風の關係にあるのであります。

(二)

そこでさういふ子供は何ういふ譯から起つて來るか、これは簡単に説明して終ふことは困難でありますけれども、一面には生理的原因があることもありません。生れ付きその子供の神経が弱い爲に、凡てが發作的になるといふこともありません。然しそれは生れ付きであるといひましたし、生後の境遇に依つてもさういふ風なことになるものであらうかと思ひます。その生後の境遇なるものを考へて見ますと、これにも種々違つた場合があるやうであります。先づその一つは小さな時から我儘放題に育てられまして、一度も自ら自分の心を抑制する我々我が心を抑へる、我慢するといふやうなことを經驗せずに育てて終ひます。さういふ風になるのであります。前講に、可愛がられ過ぎて育つた子供は自立、獨立の勇氣を失ひまして、氣の弱いものになるといふことを申しましたが、詰り意志に及ば

す關係としては同じであります、我儘放題から外へは思ひ存分な振舞をするのであります、自ら自己に對する訓練といふものが少しも出來ずに居る譯であります。しかもその我儘に育ちました子供は、單に自分で自分を抑へることが出來ないといふばかりでなく、始終そんな無茶な生活をいたして居りますから、精神全體の靜かな落付きを失ひまして、始終いら／＼したぢれたやうな性質になることがあります。我儘に育ちました子供は幸せのやうに見えて、實は非常に不幸なのであります、その不幸は自ら自分の心を抑へるこの出來ないといふばかりでなく、始終自分の心をいら／＼させて居なければならぬといふやうなところに、最も不幸な點があるのだと思ひます。昔の話なぞに我儘放題に育てられた殿様なごは、傍のもの^{はた}が何にもその心を抑へることをしない。そこで思ひ存分なことが出來て幸せのやうに思はれるに拘らず、彼れもこれも自分の本當の心を満たすものがなくして、始終いら／＼とした状態に居るといふやうなことを小説などで見ますが、我儘に育てられた子供には何もなくさういふ趣がある。殊に我儘放

題に育てられた女の子なりに、外へ出してさう亂暴はしないけれども、心の中は荒み切つて居る子供があつたりします。外へ向つて粗いこいふのではないが、心の中が粗くなつて居るのであります。

それからまた、矢張り環境的原因ですが、自分の傍の者が全體として發作的に氣荒らな人々が多いと、子供もやはりさういふ風になるやうであります。喧嘩つ早い人々の子供はやはりさういふ傾向を帶る。殊にさういふ人々の間では我慢をしないでぎん／＼やつつけて終ふこいふやうなこころを景氣の好い、威勢のいゝ、いなせなこころだこいふ風に考へたりして居る、或る意味に於ける喧嘩の早い江戸つ子堅氣こいふやうなものの中には、さういふ風なのがあるこころもあると思ひます。そこでさういふ家庭に育ちました子供は、自分は必ずしも我儘に育つたこいふ譯ではないのであります。不知不識の間に、さういふ傾向を奨励され、助長され、さういふのが偉いのだこいふ心持も養はれまして、さういふ傾向を生ずるのではないかと思はれます。

そこで斯ういふ子供は何ういふ風にして、教育して行つ

たら宜いか、これは今まで考へました斯ういふ子供の心持ち、その原因なごから考へまして、既に明瞭なこころであります。要するに自ら抑へる力が足りないのでありますから、その力を養つて行けば宜いかと思ひます。その力を養ひますには本當は子供の心の中からその力を養つて行かなければならぬ、心の中からその力を養ふには相當に長い間かかつて性格そのものを作り變へる、やうな根本の教育をしなければならぬのであります。然し外からさういふ心に悪い影響を少なくして行かうこいふ意味のこころも亦必要であります。斯ういふ子供は前にも申しました如く、外からの刺戟に感じ易いのでありますから、外の刺戟を餘り多くないやうに穩かな生活の中に置くこころも必要であります。殊に又さういふ子供は段々に荒つほい、亂暴なこころそのこころに趣味を感じて居るのでありますから、さういふ趣味を他の趣味に變へて行くこいふやうな仕向け方も必要であります。殊に能く新聞なきで見ますこころの、活動寫真を見て來て、此頃流行の所謂ちゃん／＼ばら／＼の亂暴な舞臺を見て來て、それで子供が色々亂暴になつた

こいふやうなこころなきを考へ合せるとき、それ等のこころ即ち何ういふものを見せるか、何ういふものを讀ませるか、何ういふこころ聽かせるかこいふやうな種類に就ても餘程考へて置かなければならぬと思ひます。

こころで、斯ういふ子供の問題は根本としては意志の問題でありますが、前に憐れこいふやうなこころで一寸申上げました如く、單に自らを抑へる力の足りないこいふこころばかりでなく、遂には憐れそのものが面白くなるこいふ意味は、即ち感情がさういふ風に荒れて來て居るのであります。そこでさういふ傾向の見えて參りました子供に對しては、やはり感情を和けて優し味の教育こいふやうなものをして置く必要が大いにあるのであります。例へば優しい人形の世話をさせるこころ、或は小鳥を飼はせるこころ、或は草花の世話をさせるこころ、斯ういふ優し味の方に屬するこころの遊びをさせまして、荒み切つた荒つほくなつたその感情に色合を付けて置くこいふこころも非常に大事であります。

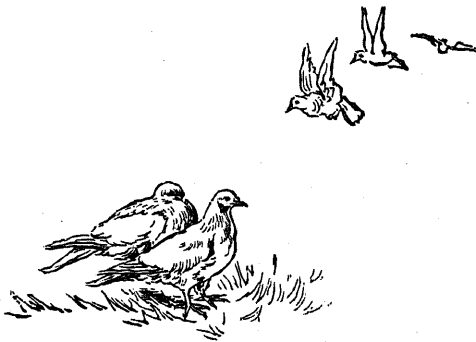
(三)

さて斯ういふ子供は氣の弱い子供に較べますこいふこころ、所謂意氣地なしでもなし、今日の世の中に立つてぐんぐん鼻つ端強くやつて行くのを出來る子供のやうであります。が、又廣く考へますこころ、今日の世の中は大體に於て斯んな風な大人を以て充滿して居るこ云つても宜いのであります。

子供の問題として考へましたけれども、これを大人に移して見ますこころ、自らを抑へるこころの出來ない發作的な易激的な荒つほい心の持主が、所謂世の中に相當の位置を占めて居る大人の中にも非常に多いのであります。これは生存競争の荒くなりました、又昔からの落付いた習慣が弱つて來ました、又現代のこの激甚な都會生活の中に居るこいふやうなこころが、段々に人間の心をさういふ風にするこころであらうかと思ひます。殊に今日の世の中には可なり反動的な反抗的な氣分が非常に社會を制して居るのであります。其中には勿論從來の間違つたこころに對して訂正を加へなければならぬこいふ意味に於て必要なこころもありませうけれども、こいふこころは靜かに考へ、靜かに判斷して、止むを得ざるが故にさうした態度に出来るこころのやうな落付いた

心持であつて欲しいのでありまして、感情そのものにしては、やはり靜かな落付きを失はずに居たいのであります。時代が時代であれば尙更さういふ傾向を持ちたいのであります。殊に私の近來痛切に感じて居りますこゝは、我國の青年期の者が、近來甚だ荒^あび、荒んだ心になつて居るやうに見えます。社會全體がさうでありますから、自らさうなるこゝも止むを得ないのでありますが、もう少し心の何處かにしつゝりした、落付いた氣持を有つて育つて貰いたいと思ふのであります。今日の青年の實に無作法な粗野な状態は、これ等の人に依つて築かるべき將來の我國の社會に對して甚だ憂はしく思ふ點もあるのであります。世の中が斯うなつて來まして、その點を少しでも憂へますからには、一人々々の子供を、その子供の幸福の爲に教育するばかりでなく、社會全體を築いて行くものとして、その缺點に對して、各家庭に於て注意する必要も大いにあらうかと思ふのであります。元來が氣早で、落付きの何方か云へば少ない國民性であるのでありますから、それがこの現代さいふすさまじい生活に觸れて來て居るのでありますから、教

育は尤もその點に意を用ひて、激甚な現代の生活に闘ひ得る、然しながら性格そのものにしては粗野でないこころの人間を作るこゝに力を盡さなければならぬかと思ひます。



お茶の水時代 (完)

— 思ひ出をたどる —

○

和田 實

御茶の水の幼稚園が、愈々大塚の新園舎に引移るこゝになり、六十年の歴史に、一轉期を劃するこゝになつたに就いて、二十五年の昔を想ひ出して、何か書く様に云ふ御註文、大した面白いお話もないとは思ひますが、歴史のつなぎに云ふ意味で、思ひ出るまゝを書いて見ませう。併し數年前堀主事の時にも同様の御註文で、何か書いたと思ひますから、或は夫れを重複するこゝがあるかも知れませんが、其邊は御許しを願ひます。扱て、私の御茶の水に奉職したのは日露戰爭の直後でした。幼稚園には本園に三組百二十人、分室に一組六十人があつて先生は各組に主任の保姆が一人づゝの四人と助手が二人全體の主席保姆が一人居りました。子供は九時の始まりに八時頃から、やつて来るものもあつて、九時になるに、小使が振鈴して授業が始まるのでした。全く學校の形式を採つたものです。振鈴を聞くこ子供は夫々自分の組の部屋に入つて、保姆の來るのを待つて居ます。頼がて保姆が來るに、一と挨拶して、一同を遊戯室に導きます。本園一同が集まるに、茲で唱歌や遊戯なごをなし、時にはお話や訓戒なごもあつて、所謂會集を終ります。夫れから、また、各組の室に戻つて、保姆は、出席を調べた後、唱歌、談話、手技、等夫々其組の豫定の保育事項に取掛るのでした。そして、各

室の入口には小さな時間割に一週間分の仕事の種類を掲示することは、今日の小學校に全く同じことでした。室の中は保育第三年の組と同第二年の組は幅三尺長六尺の卓子に向ひ合つて著席するものが、四つ又は五つあつて、室の中に、適宜に配置されて居ました。一番小さい保育初年の組は卓子が間に合はないので、元の小學校風の二人掛の机を四字に並び、之に著席して居ました。此机の表面には兒童用の積木の大きに合はせた基盤目が刻んであつて、積木で遊ばせるべきの整頓の基準になる様になつて居りました。併し、是も暫時の後には、大きい卓子に代へられて、外の組と同じ様な體裁を整へる様になりました。先生方は能く子供と調和して、遊ばせては居りましたが、形式の上からは、全く學校と同様で就學以前の子供と云ふ感じはありませんでした。それから、半年ばかり経つ中に、室の入口の時間割は自然に必要な感じなくなり、何時の間にか取り去られて差支ない様になつて仕舞ひました。併し、夫れでも、會集することゝ、午前に二度の入室と午後一度の入室とは、殆んど既定の様にきちんとして行はれて居ました。是が、追々子供の遊ぶ状態に連れて、臨機に變更される様になりましたが、此状態で、私の任務が、小學校の方の専任になるまで、即ち明治天皇の崩御の年まで續きました。

保育法の内容としては、當時、中村五六先生の保育法と云ふ本と東基吉先生の幼稚園保育法と云ふのが、權威で大體は此書の内容が實行されたものでした。併し何方か云ふ書物の指導する内容よりは、保姆の先生方の實際の保育其ものの方が、餘程理論的には進歩して居るものでした。段々、先生方の實際にして居るところを觀察した結果、保育法其ものを、此現在先生方の實行して居る實際に即して、新に建直す必要があることを痛感しました。即ち、當時の保育法と稱する書物は、此實際の保育を説明するものとしては、極めて時代遅れの感があつたのであります。そこで、明治三十九年に保育實習科が設けられて、其教育科の教授をしなければならなくなつたのを幸に、保育法を根本から建て直すことに、組教育學も現在の様に小學校の教育學として、なく、普通教育の全般に亘り、幼児教育をも、包含する教育學として、組

織し直して、教授するこゝにしました。此新組織に因つた保育法が、「幼児教育法」云ふ名稱の書物になつて、日本幼稚園協會の前身フレールベル會から、出版されて居ましたが、當時こゝしては餘りな急變事な爲めか、餘り注意はされませんでした。私が此新保育法ののちを、幼稚園の保姆先生方に講演した時に、倉橋惣三先生（當時新に赴任された頃で、時は明治四十五年の初め）に批評を求めたらば、先生は、餘りにオリジナルな部分が多くて批評し悪い」云はれた位でしたから、他の人には逆も批評的に見るこゝは出来なかつたのかも知れません。兎に角、私の新保育法は殆んど教育者の默殺に遇つた様なもので、誰も批評もして呉れなければ、贊成もして呉れもせず、不遇で今日迄來てしまいました。

併し私は今日でも保育は教育の一部であり、教育學が教育の全般を説明す可き科學である以上、保育法は當然、教育より演繹せられねばならぬもの之信じて居ます。教育學者云はれる人が、何故、幼児教育を、教育學の對象外に置くか、實に、不審の極みなのですが、一方から云へば、幼稚園保育の指導者が、保育は教育に非らず云ふ建前の下に、保育の理論を教育學者に聞かず、専ら直接に、心理學者からの指導を受くるのに満足して居る結果ではないかと思はれます。保育の理論は果して教育學の圏外に置かる可きものでせうか。

私が奉職中、私の一身上に探つて、此上もない打撃は、何云つても、時の校長高嶺秀夫先生の逝かれたこゝでした。先生は實に大教育家でした。幼児教育に就いても深い理解がありました。幼稚園には和田が居る云ふこゝを他の人にも云はれて居られました。併し萬事は終りました。私は明治四十五年の四月に小學校の方の專任になつて、御茶の水の幼稚園は絶縁するこゝになつたのであります。爾來、二十餘年、保育界は倉橋教授を初め權威ある方々の御指導に因つて、内容的には偉大な進歩を遂げました。此上も益々進歩するこゝでせう。茲に於て、愈々益々其必要を感ずるのは理論的統制の必要なこゝです。既刊の保育に關する書物は理論的に現在の保育を説明しては居らず、亦同時に、將來の保育の趨勢をも暗示しては居らず、無論、教育學的統制を缺いて居るものであります。保育を教育學中に統一し、完全なる理論を

保育者に與ふるこゝは斯界指導者の任務でなければなりません。



大 關 心 よ

ボカボカミ暖かい日ざしが、お山や砂場や花壇や藤棚や、ごこもかも一ぱいに流れ渡つてゐる。子等は、伸びんこする全身の力を、思ふ存分に發揮して、嬉々こ遊び廻つて居る。それは、花信しきりに傳へられる春でもよければ、落葉の錦が大地を包む秋でもよい。花に戯れる蝶々の如く、木の實を啄む小鳥の如く、その生命は自然の間に融け込んでしまつて、天地は將に一大樂園を示すものである。

かゝる時、少しお辨當を早く濟ませて、お隣の聖堂へ遠足を試みるのは、この上もない彼等の喜びである。二人づゝ仲よくお手をつないで、藤棚を通り、小學校の校舎を通り、女學校の側を過ぎるこ、境の堀がある。小使に、鍵を開けてもらった、小さな門をくゞるこ、そこはもう聖堂の構内なのである。徳川家康の世に天正以來の兵亂治まつて、これから世は泰平にならうこする時、まづ一國の統治は文教を興すにありこ觀じ、林大學頭をして、本郷湯島臺に文教の淵源を定めしめ、孔子の尊像を安置して、精神教育の基をこゝに置きてより、幕府十五代の間、幾多の學者がこゝで思を練つた事であらう。足ひきたびこの地を踏めば、老樹亭々こして天を摩し、子等の歩む土の色は、漆黒に青い苔のむした所さへあるのである。左に進み右に折れ、古い建物の傍を過ぎるこ、古色蒼然たる石段がある。幾百人の學生に、踏み固められた石の一つ一つは、土の中に半ばうづもれて、草なぎ生えて居り、角も丸みてあれば、子等の歩むにも、些の危険もない。段を登るこ又門がある、質素な黒い作りではあるが、正面遙かに聖廊を拜しては、何こなく敬虔の念が湧く。然し子等には、そんな連想は一つもないのは勿論である。

「先生ドングリが落ちてゐますよ」

「こゝにもあつた」

こゝいふ場合、先生が一步でも立ちおくれようものなら、子供はバツミ飛び散つてしまふのである。而しもう目的の所へ来て居るのであるから、引きしめておく必要はない。

「おゝ、ドングリがいくつもありますね、〇〇さんにも先生が見つけてあげませう一緒にいらつしやう」。

「先生これ何ですか」

「それはドングリのはいつて居たおわんです」

「お帽子のやうですね」

「そうそうドングリのお帽子の様ですね」

「先生これ何の葉？」

「それはいつての葉ですよ」。

秋の收穫は何ミ云つても豊富であるが、夏は又バッタ、蜻蛉、なご蟲狩が相當に出来るので、男の子のおよろこびであるし、春の草花は、女の子のまゝ事の材料が、無數に得られるのも有り難い。

「私赤まんまをさるの」

「私はきうり」

「私ねぎよ」

「先生これ何でせう」

「それは猫じやらしでね、こつやつて動かすミ猫がじやれますよ」

「先生おうちに猫みますよ」

「おうちにもゐます」

「うちの猫ゆうべねすみこつたのよ」

聖堂は決して華やかな公園ではない。楽しい遊戯場ではない。それでも子等は時のたつのを忘れて、新しい経験によろこぶのである。

「もうそろそろ歸りませうか」

「ええ」。

「いやです」

「もうミミのりたいの」

「ええ、いいふ子供の柔順さも」もつミ居たい」ミ云ふ子供の熱心さも」もつミ採收したい」いいふ子の努力家も、皆將來何物にか役立つべき、素質の一因だと思へば、大人は、決してこの尊い芽生えのひらめきを、折つてはならない。地に下された種子が、始めて萌え出た時、さうしてその芽を踏むこぎが出来やう、培ひ水そゞぎ、朝早く見舞つては、昨夜の中に害虫の侵すこぎはなかつたかミ調べ、夕方には、風雨のさわり水の不足がないかミ、尋ね度いのは人情である。この尊い芽生えのやうな幼児の、誰も氣持をさうかして生かさねばならない。

「あゝあそこのお屋根に鳩ポッポが居ますよ」歸らうミ賛成した子等は、見事にこの鳩の方へ興味を轉じてしまった。鳩ポッポくゞミ、日頃口ずさむ、お唱歌は自然に、子供の口から湧いて来る、飛び去るもの、飛び来るもの、二羽になり三羽になり、五、六、七、八、屋根の上は鳩のダンス場である、あれがお母さまの鳩、あれが子ぎもの鳩、赤ちゃんがおん

ぶしてゐる、なご、盛に想像の翅は擴つてゆく。

「先生こんなにひろひました」。

採集家のポケットは両方とも一ぱいである。

「さあそれぢや歸りますよ」。

もこ来た途をもこの様にしづかにく歸るのである。



野 間 こ よ

私が明治四十一年の春以來十三年の間お茶の水幼稚園に御厄介になりましたのは十數年昔のころでございます、長くも感ぜられ短くも感ぜられる此十三年、やはりいろいろの事がございました、妹も弟も持たぬ私は子供が大好きではありましたが、これに對して何等の経験も持たず、はじめて四十人の子供を受持ちました時には全くさうしてよいか分りませす子供に口利くのも恥かしい氣がしました、でも他の先生がたの御親切なお導きのもこに其日其日を子供に怪我もさせず一しよに楽しく遊んで行くこが出來ました。樂しかつた思ひ出も苦しかつた思ひ出も數々ありますがこには其當時の保育の片はしを一つ二つ覺えない記憶を辿ながら記して見たいと思ひます。

まづ朝子供が集まりました頃、保育室に入れ各兒の定まつた椅子に腰かけさせて後、手を洗はせたり、鼻をかませたり、爪を調べてやつたり、整容に關する種々の事をします。

整容が終りますも先生も子供も全部遊戯室に集まり半圓に並び當番の先生が中心に立ち「お早うございます」朝の挨拶をしてあき二つ三つ唱歌や遊戯をして終ります。時には其時々簡単なお話もいたしました。

此會集がすみまますこ幼児は各保育室に別れ遊戯、談話、唱歌、觀察のやうなものゝ中何れかをなし其のあこ外遊びをして更に又保育室にて畫方、ぬり繪、手技、手工、(手技、手工、こは其當時私達も用ゐました言葉で積み方、ならべ方、粘土細工、豆細工、摺紙、織紙、剪紙、貼り方、つなぎ方、なごを含んでゐたこ記憶いたします)の類をなすのが普通でありました、それを終つて食事、外遊び、歸宅、こ云ふ大體定まつた順序で日々の保育を行つてをりました。

本校の生徒、保育實習科生の保育實地練習こ云ふ事がありましたので一週間の時間割を定め殆んど豫定通りに行つたのでありましたが子供にこしては不自然な點も多かつたここゝ思ひます。出来るだけ此不自然を避けるやうにこ注意したものでありました。

或時はこんな事もして見ました、例へば粘土細工こ定めても其時粘土細工よりも繪を描きたいこ云ふ子供のあるのも當然のここであります、そこで遊びの種類自由撰擇こいふここをして見ました。即ち保育室の机(普通は五つありました)の上に畫き方、粘土、積木等種々の遊びを机々によりて別々に準備し置き何れにても其好む所をさせました。年中粘土細工ばかりしてゐるこ云ふ風に偏したもなく興味を以て各自の好むものをしました。これも一つの方法かこ思ひました。

又或時は倉橋先生のお話を伺つてこんなここもして見ました。元來一組の子供四十人(其後三十人になりました)がこ云ふ數は餘りに多すぎます、私はいつも二十人が適當こ思ひましたがそう云ふわけにも参りませんのでお茶の水幼稚園には敎生、保育實習科生、こ云ふ風に大人の手が多かつたのを幸に子供の一團を六人から八人位に分ちまして其各團體に一人づゝの練習生を配當し實際保育の練習をさせました。時間こ場所この配置を考へて一團體づゝ別々に落付いた保育をするやうに注意しました。ですから保育室、池の邊、小山のかけ、藤棚の下、クローバーの原、こいふ風にてんでんに机や椅子を持ち出して其準備には毎日かなり大騒ぎをしたものでこさいました。此方法は多人數より來る保育上の缺點を除くこ

こが出来まして比較的自然的な保育をする事が出来ましたかと思ひます。分園保育でも申しませうか。

又或時はこんな遊びもして見ました。それは動物園遊びであります。遊戯室を動物園として鳥や獸の標本の仕舞ひ込んであるのを持ち出したり、熱心な教生はわざ／＼上野の動物園へ寫生に行つたりして本校の寄宿舎の部屋一ぱいの紙に大きな象や獅子や虎やをかいて子供は自分の五倍も六倍もありそうな此象や獅子のまはりの線をチョキン／＼と切つてこれを壁に紙でこめ其前には檻の金棒を厚紙にて作つたものを押しあて恰も動物が檻の中にあるやうに作り出し、室の中央には積木と水色の紙にて池を作り中に水鳥の標本を配置し、又厚紙にて肴を作り魚釣場を作りなごして遊戯室は賑やかな動物園になりました。本校や附屬の先生や生徒さんをこの動物園に御案内して一週間ほごはたのしいお祭騒ぎをしました。かなり大仕掛けな遊びであつたゞけに子供達の喜びは大きうございました。詳しい事は長くなりますから略します。

三月のお節句には遊戯室にお雛様をかざり校長様や本校、附屬、の先生方をお招き申上げお雛様の前でお話をしたり、お遊戯をしたり、お唱歌を歌つたりして楽しく遊びました。そして其日は朝早くから私達が作りましたおいりを手製の小箱に入れお雛様の前でみんなでいたゞきました、子供の喜びは一方ではございませんでした。

五月のお節句にも遊戯室に鐘鬼様の軸物をかけ鎧や武者人形をかざり其前で遊びました。

又其季節々々の園藝も子供は非常に喜びました。

一鉢づゝ與へて各自に朝顔の種子を蒔かせ毎日の給水から除草まですつかり世話させて夏休みには青々繁つた朝顔の鉢を家に持ち歸り休暇中に咲いた花を寫真にこつたり寫生したり措葉にしたりして九月に幼稚園へ持つて來るのも樂みの一つでありました。其他蚕豆、落花生、二十日大根、なごも蒔かせて見ました。せんなりひょうたんも大變可愛らしくおもしろうございました。子供の家から粟を澤山貰ひまして觀察材料に使ひましたあゝ各自に蒔かせました。大きくなつて

子供の春丈けの二倍にも三倍にもなつてゐましたのに震災で跡形もなくなり惜しい事をいたしました。マクレッツの挿木、バラの挿木なども面白うございました。

いろ／＼の思ひ出はつきませんがこれで筆を擱きます。今から考へましても私は随分不自然な保育もいたしました。形式に捉はれた保育もいたしました。あゝもしたらよかつたのに、こうもしたらよかつたのにご自分の研究の極めて淺さかつたこと、自分の努力のいかにも足りなかつたことを今更のやうに後悔いたしてをります。けれども萬事あごの祭り、其時の子供はもう既に立派な方々になつてゐられます。此頃でも時々お目にかゝります毎に昔の幼き姿を思ひ浮べつゝ人間の尊さをつく／＼と感じます。そして其方々が其一步一步を最も正しくかつ強く踏みしめて心身共に健かに行手遙かに邁進せられんことを祈つてやみません。



大 瀧 晴

この度いよ／＼大塚の新校舎が落成して、幼稚園も近々御移轉になりますさうで誠にお目出たう存じます。理想的に御設計なさつて、至れり盡せりの設備を整へられたさすがらしい建物と美しいお庭の中で、御抱負のまゝに理想的な保育を御實現になるのですから、先生方には定めし希望に燃えてお出でになります御ことゝ遙かに御察し申上げて居ります。

しかし私はあのお茶の水といふ傳統的なゆかしい名前も、あの高爽なああの由緒深い湯島の土地から離れておしまひになるのが、何とも言へず惜しいやうな心地が致します。

殊に私が御世話になつて居りましたのは、震災以前のことで、あの美しい庭、心地よい建物ばかりが印象されて居りまして、震災後の御様子がよくわかりませんので、殊の外かやうな感じが深いのかも知れません。

「お茶の水幼稚園」にいふこ、私は何こも言へず心が清まるやうな思ひが湧いて参ります。全く凡てが清く温く明かであつたのでございます。あの御人格の高い安井先生、倉橋先生を主事と仰いで、あのおやさしい親しみ易い雨森先生、池田先生（唯今の野間先生）坂内先生、及川先生をおはじめその他の先生方を御同僚として、しかも天使のやうな幼児を相手としてお務めですから、如何に清らかで、温かで、朗かであつたかといふこはごなたも御うなづき下さるこゝろ存じます。

安井先生の御人格の御高いこは、今更申し上げるまでもないのでございますが、お側近く御言動を拜見する私は、全く日々敬服しきつて居りました。その頃私は父と二人で暮して居たのでございましたが、私は先生を敬慕する餘り、毎日歸宅するこ、無意識の中に先生の御美德をお讃へして居たものこ見えます。一體私の父は頑固な人でございまして、あまり婦人を尊敬したここなきないのございましたが、私の話を通して安井先生の御人格には深く敬服してゐたやうで、いつでも人に、

「安井哲子先生こそは、稀に見る人格者でいらつしやる」。

と讚嘆して語つてゐるのでございました。

先生は私共部下をわが子のやうにおいつくしみ下さいました。その一例を申しますこ、先生が餘り私共を勞つて、少し仕事をしても、心から、御苦勞だ御苦勞だこおつしやつて下さるので、私共は勿體なくて、大々的な庭の手入りこか、職員室の大整理こいふ少しつてもこちがふ仕事は、先生が本校の職員會に御出席なさつたお留守をねらつてするこに致して居りました。その日は先生が向ふへお出でになるのを待ちかねて、みんな總出で心を合せ、それこそ骨身を惜しみます働きます。

これはまた矛盾のやうでをかしくも思はれますが——私は之を親に對する子心と解釋したいのですが——かういふ風にみんなで働いてきれいなつた跡を、先生に見て頂くのが無上の樂しみでございました。先生がお歸りになつて。

「おゝ、きれいなりました。御苦勞さんでしたね」。

ミ審目美しく掃き清められた庭、黒々ミ耕し出された土の面を、お嬉しさうに微笑みながら、じつミ眺めて下さるのが、たごへやうもなく嬉しかつたのでございます。實に先生のあの御微笑は、數々の御美德ミ共に、私の心の中に永遠に輝いてゐるやうな心地が致します。

倉橋先生も亦ほんたうに温情を以つて私共部下をお勞り下さいました。そして寛大なお態度で、私共のあやまりや、不束な點を宥しながら、御懇切にお導き下さいました。殊に御造詣深い教育學や心理學の御蘊蓄を傾けて、私共を御指導下さいましたことは、一生の幸福ミ深く感謝してゐる所でございます。誠に不束ながら私の教育觀は、全く先生の御指導に依つて確立したやうに存じます。其の後私は小學校女學校ミだんぐ大きい生徒を相手の教育にたづさはり、又家庭に於ても三人の子女を育て、参りましたが、如何なる場合にも、先生に御教示頂いた教育觀を基礎として、事に當つて参りました。殊の外不敏な私が今日まで大過なく、教育者のお仲間入りをさせて頂いてまゐりましたのも、偏に先生の御導きの賜ミ、いつも感謝致して居ります。

又先生の御導きの下に、色々工夫をこらして試みました保育の實際は、誠に興味多く意義深いものであつたやうに記憶致されます。遊戯室の眞中に四本柱をしつらひ、紅白の幕を張りまはして催した相撲遊び、小さな樽神輿を作つて、ワッショクミあのお山や藤棚の下をかつぎ廻つたお祭り遊びなど、今思ひ出しても胸が躍るやうな感じが致します。そして頬を眞赤に染めた、可愛らしく元氣な誰彼の顔が、目前にちらつきます。

又幼いながらに藝術的態度を以つて、燃ゆる心血を注いで製作した、晝や粘土細工などの展覽會も、誠に楽しく貴いものであつたやうに思ひ起されます。同時に幼い魂を注ぎ込んで製作にいそしむ子供さん方の顔ミ、藝術味あふれた可愛く面白い製作品の數々が、彷彿ミして眼前に浮びます。

さてあの頃のお茶の水幼稚園の外觀を思ひ出すにつけ、一番印象の深いのは、あの藤棚ミ薔薇の垣根でございます。震

災直後焦土に化した校庭を訪れて、無憐な藤棚の焼跡を眺めた時、私は幼稚園の建物にも増して、惜しかったこいふ感じに打たれました。

保育室の窓を飾る薔薇の垣根は、全く野間先生や田中先生(當時の岡野先生)坂内先生の御努力の結晶でした。私なごもするぶんお手傳ひをして、手入を致しました。油蟲を除く爲、春の光を浴びながら、可愛い幼な兒を相手に、薔薇の一片をていねいに筆で洗つていらつしやる先生方のお姿がなつかしく浮んで参ります。私は小輪で可愛らしくそして香の高いあの垣根の薔薇が特別好きでした。天國のやうな幼稚園が、あの薔薇の美しさご可愛らしさを加へて、更にく美化される晩春の頃が、ほんたうに楽しみでした。

私はその後方々に引越して歩きましたが、ごの家でも必ずあの種の薔薇を仕立てました。所がさうした運命でせうか、やうやく成長して花が咲くやうになるご、必ず轉住しなければならぬ事情になるのです。殊に水戸の家では特別念を入れて立派な垣根を作り、それがやつご澤山の蕾を持つた時、主人が今居ります下館に轉任の命を受けたのでございまして。私はよくく薔薇には縁がないのかご、自分の運命をかこちました。そして今度こそはご昨年はこちらで、石油箱に一ぱい凡そ五十本ばかりの挿木を致しましたら、それが僥倖にも全部根が付きまして、専門の園藝家を驚嘆させました。これは地に下さないで、あの箱のまゝ花を咲かせて、何處のはてへでも持歩いて、幼稚園の思ひ出の記念ご致したいご存じて居ります。

何しろ天使のやうな子供さん方を相手の仕事故、可愛かつたごご、嬉しかつたごご、教へられたごごの思ひ出の数々は、ごごも擧げつくすごごは出来ません。又その半面、未だわからずやの子供さん故、困つたごご、悲しかつたごご、苦しかつたごごの数々も、述べつくせない程でございしますが、

「お家に歸る、お家に歸る」。

と言つて、いくらすかしても泣きやまないお子さんをおぶつて、自分も涙をこぼしながら、あのお山のあたりをさまよつたこみや、メーリーゴーランドを烈しく廻して、飛乗り飛降りな危険な藝當をするのを、いくら制してもきゝ入れられず、膽を冷しながら番をして見たるたこみや、まごかの幼稚園の園長さんが、參觀にいらつしやつた時、数日前から奈良山先生に教へて頂いて習つて置いた犬の畫を、やつこの思ひで描いて見せたら、

「先生、象も描いて下さい。象も描いて下さい。」

まみんなにせがまれて立往生をしたこみやも、今こなつては、たゞなつがしく思ひ起されるのでございます。

終に臨み誠にお恥しいこみやでございますが、私はこゝに或る子供さんから、一生忘れ得ぬ教訓を受けたこみやを告白致します。

私は御承知の通り、生來不精なたちでございますので、子供さん方から何か頼まれるこ、

「あつて、あつて。」

と言つては、一寸のがれをしてゐたもの見えませぬ。自分ではそれほご意識して居りませんでした。

いつか私が別に忙しい仕事をしてゐた時でもなかつたと思ひますが或子供さんが、

「先生前かけのボタンをつけて下さい。」

ご頼みになつて、私の返事も待たずに直ぐ後から、

「先生、あつて。」

と言つて、私の顔をじつと見上げました。あゝあの時の私の心、ほんたうにぎくりして、胸がえぐられるやうな氣が致しました。恥かしくて居たゝまらないやうな心地で、まなたにも話し得ず、ひたすら自分の今までの不精な仕ぐさを責めてゝ後悔致しました。それから自分の怠慢な心に鞭つて、及ばずながら即時實行を心がけてまゐりました。今でも不

精な心が起ります。あの子供さんの。

「先生、あつて。」

私を見上げられた。難い目なぞしを思ひ出して、戒めを致して居ります。

かうして書いて居ります。なつかしい思ひ出は限りもなく湧いて参りますが、紙數に限りがございますので、これで拙い筆を擱くことに致します。

昭和七、一二、二二、雪の筑波を仰ぎつゝ、

下館の寓居にて

坂内ミツ

お茶の水の幼稚園、これは一生私の頭にこびりついてこれないものであります。此度は完備した園舎が竣工して窪町に移られても私は尙お茶の水と呼ばずには居られません、其なつかしい幼稚園、私に一生の仕事を授けて下さった幼稚園に奉職したのは二十二年前の事でありました。星變り時移り時勢の推移につれて保育の形式、幼稚園の空氣といふものも知らず知らずの内に變つて來たやうに思はれますが私はたゞ單に形にあらはれた二三の事について思ひ出したまゝに書いて見ませう。

幼児の服装は大正のはじめ迄は洋服を着て通園される方は數へる程でみんなが異様の目を向けた位でした。殊に入園検査の時は體格検査があるといふので全部和服、三つの御祝に著せられ袖の長いゴロリミした風でしよふ／＼に來られたものであります。男兒の中にはノシメの羽織袴に白足袋といふいでたちが少なくなかつたのであります。大正も十年頃になりますと大方洋服になり時々和服のお子さんを見るに赤いかのこの兵古帯も可愛いものねささゝやき合つたものです。

奉職の當時箆筒（名ばかりの）の中を調べ、どんな着物が用意してあるか見ました時に目にうつつたものは、筒袖にした双子の細かい縞の衿ミ綿入、長袖の淺黄形つきの單衣、白形つきの筒袖の單衣、蟲のくつた黒つほい細かい縞の本チルの單衣が筒袖ミ半長袖の二枚紫メリンスの兵古帯ミだけでした。しかも皆ずいぶん時代のついたものばかりでした。田舎育ちの私も實は其質素なのに驚きました。その頃でもこれを着せてお歸するのはごうも出来ないやうな氣がし出しましたので或時なき電話をかけてお迎の時に着物を持つて來て貰ひ度いといつた處、察せられたミ見え電話をかけ終つて小學校から歸るミすぐ、スキリした一揃を抱いた女中さんが自動車で駆けつけ玄關に横つけにされたのには驚きました。其頃自動車ミいふものはめつたに乘られぬもので整澤屋の乗り物ミ思はれて居た時代ですから玄關に横つけにされるなごは驚異の目で見られたものです。其後あまりひざいひざいふので安井主事をはじめ雨森先生、池田先生其他職員會議で協議をしてつくられたものは何かさいふに驚く勿れ、バカく木綿ではないが一寸手のよい染緋の筒袖衿ミ綿入、白地の染緋の單衣でした。これに紫メリンスの兵古帯をしめさせられた人が今は大學を卒業しようとして居る人達です。今から思ふミ不思議なやうですが誰もあやしまないのは時勢の然らしむる所でせう。それが大震災の時すつかり焼けてしまひましたので、其後は上衣、下着、靴下等全部洋服の着換を用意しました。

序に先生の服装も書いて見ませう、この時代に變つたミいふのは羽織が柄物になつた事です。それ迄は職員 of 服装規定にある通り羽織を用ふる場合は無地たるべしさいふのを守り女の先生は申し合せたやうに無地の袖の紋附を着て居たものです。奉職當時袖の紋附が間に合はずたゞ一枚の紋羽二重の羽織を毎日着て居てはお式の時に困るミ思ひ無地の出来る迄小紋の羽織を着て出勤して居ました。一寸用事があつて寄宿舎に行き生徒監室に入りました處、或先生が用事も聞えぬさいふ風に眼鏡越しにジロノ御覽になるのは、反則ではないか、無地の羽織は持たぬのかミおつしやるやうに思はれて恥かしくて堪らず早々にしてかへりましたが、袖の無地が出来てからは一日も外の羽織は着ませんでした。處が幼稚園は一日

中動いて居るので殆んご襷がけです。さの先生を見ても脊紋の上に襷十字にあやまつて働いて居らるゝのはあまり見て感じのよいものではありません。働くなら働くやうに徹底的に服装も換へた方がよいと相談がはじまりました。今ならずぐ洋装こ来るのでせうが其頃はそこ迄は行かすせめて幼稚園だけは縞の羽織を許していたゞき度いこ安井主事から校長に願つていたゞいて無地以外のものでも宜しいとこいふ御許ができました。幼稚園で着はじめるこ小學校其他の若い先生にも無地を召さぬ方があるやうになり今日に至つたものであります。

お茶の水こいへば思ひ出が多いのですが其内でも忘れられないのはあの遊戯室の奥の玩具室であります。實にカビ臭い古色蒼然たる部屋でした、日當りの悪いせいでもありませんが感じのよくない一室でした。が私は時々こゝに入り込んで色々こ古い恩物や玩具を引き出して見て居るのが好きでした、幼稚園こいふものが輸入された當時あちらの恩物を其のまま用ひたこ思はれる恩物、成績品が澤山ありました。お茶の水以外では見られぬ室でした、わざわざ遠方から研究に來られてこの一室で勉強された方もありました。教育は時代に適應させて行かねばなりません、土地の状況によつても異らねばなりませんが何事も原理を知るこ同時に其變遷即ち歴史を知らねばなりません。固き土臺の上に建つ建築でなければ覆り易いやうに、歴史を究めず今日だけを膨脹させるのは土臺が危い氣がいたします。其歴史を知るには幾冊の保育史を讀むよりも幾時間の講義を聞くよりも百聞一見に如かず、この一室で心して見て居れば大方の事がわかり教へられる處が多かつたこ思ひます。捕はれてはいけませんでせうがせめて見せて上げたいと御若い方々のために惜しくて堪りません。震災後すぐ焼け跡を見舞つて第一に此一室の跡に歩を運びました。あれはこれはと探して見れど何一つ見出されません。暫し茫然と立つて居りましたが漸く瀬戸のお雛様一對を掘り出し大事に抱いて歸りましたが、今もあの部屋を頭に描いてよき参考にいたして居ります。

たより

○今年は格別雪が多うござい
ました。お茶
の水では雪だ
るまでも作る

のがせい／＼でしたのに、さすがに廣々としたこの庭では、雪合戦、雪すべりと遊びが大きく、幼稚園の爲に特に降つたかと思はれる程活氣づいて來ます。色とり／＼の小さな手袋がストーブのあみに並ぶのも、雪の日の可愛い、情景でございます。

○何ごとにも宜しく、みな様からのお便りをおまちして居ります。

○倉橋主事は本校から帽子と外套をかゝえてお出でになりました。なんとその外套は、女子高等師範學校中にて最も偉大なる體軀のM教授のものでありました。

私がお見かけた時は一寸
こんな様子。M教授の方ではどんなでせう。私の繪心だけでは描けません。

○音に名高き人形芝居の菊池さんは郊外から近くの音羽町に引越したのが、丁度幼稚園で最も忙しい新入園検定のころ。明日は抽籤といふ日の歸りに、明日は八時迄に來なくちや間に合はな

いのね。

さうよ、ちや一番近い菊池さんに萬事
お願ひすることにしませう。
ちや、この掲示もみんな
ついでに倚子の雜巾がけも。

といふわけで朝になりました。肝心の當
の人は七人の七番目、おごるわ／＼何で
もおごるぬと駈つて込み、起きわたしが八時
近くだつたそうです。間もなく白十字の
ショートケーキを御馳走になつたのはい
ふ迄もありません。

○神原さんは大のスキー禮讀者。雪といふ
字を見ただけで、胸がときめくさうです
から、執着心は腕前によらないと見えま
すね。それが、紀元節日曜とつらくスキ
ー列車の満員の目、躍る心を抑へてわが
家につゝしんでみました。それは翌日が
幼稚園抽籤なのでその理由はかうです。

私、スキーに行くことの上眞黒になる
でせう、さうすると、抽籤に澤山人が
集つて來て、あら、この幼稚園にこん
な眞黒な先生が居るのかしらつて思は
れたら、主事にすまないちやありませんか、だから我慢するわ。

然し皆様御安心下さいませ、倉橋主事は
よにも稀なる心の寛い方ですから黒かる
うが、青かるうがそんな御心配には及び

ませぬのに。

○編輯子はじめて本欄でお目見得致しま
す。昨年の暮に、「たより欄」をおくやう、
新庄氏から奨められ、OK!とばかり承
知しておきながらのび／＼になつて居た
のですが、それに業をにやしたのでせう、
二月號に獨りで同氏が皮切りしてしまひ
ました。ところが豫想以上に好評なの
で、若しかして私がおほめに預つては誠
に相済みませんから、こゝに名譽を受け
る人を明らかに致す次第です。

○いよ／＼昭和七年もこれでおしまひ。今
は園児をおくり又迎へる、重なる準備で
お忙しくいらつしやいませう。今月は幼
稚園の年頭號として編輯いたしました。
「新保育期の計畫」と所期、「新入幼児のむ
かへ方」の多數實際家の御言葉は、よろ
こんで頂けるものと存じます。學校關係
は何處も年度末の御多忙と見え、今月は
お約束の原稿で、頂けぬものが多くて殘
念でした。

○この新園舎の様子をのせるやう、皆さん
から御催促をいたゞいて居りますが、「お
茶の水時代」も本號でなへましたので、來
月號から追々に「新園舎すまひ」を掲げる
積りで御座います。
(神原)

新昭和幼年唱歌

第一輯目次 第二輯目次 昭和幼年唱歌 第三輯 昭和幼年唱歌 第四輯

園長先生 野原はひろい
 人參食べてる ワクボノリ
 兎さん 鎧を著たい
 猿はひっかく 家鴨を數へま
 鶉のお家 せう
 蟲がはねた 毬がつきたい
 ベンギン たんほほ坊主

河馬ちゃん 早く繪や字をかきたいな
 ミンミン蟬がないてるる
 すべり臺
 お幸ころころ
 たんほほ坊主

二羽の雀 大鼓はぎんぎん
 伸びた竹の子
 お父様のお父様お母様の
 お母様
 門番 失敬
 たんほほさいた

廣島高師教諭 山本壽先生著
音樂教育の三大方面
 菊判美裝函入
 定價 四 五〇

小松、梁田、葛原先生著
 文部省 定 **小學歌曲選集**
 四六倍判美裝
 定價 一、二〇

小松耕輔先生著自第一集至第三集
小松耕輔歌曲集
 四六倍判美裝
 定價 各五十錢

新昭和少年唱歌

第一輯目次 第二輯目次 昭和少年唱歌 第三輯 昭和少年唱歌 第四輯

お宮にお寺 お家にあかり
 柿の種ご握り がつきました
 やねの上の雀 ベリカン
 はまべの子 牛さき馬
 私の箱庭 羊子供山羊
 ラヂオ體操 日暮山霧

地下鐵道 田圃の雨山の雨
 アンテナ線がゆれてます
 蛙のブル
 私のひよこ
 ほっくり浮いたまくわ瓜

朝日がでてる 二列三列桐並木
 煙の環
 早起き
 五月の節句
 子兎踊

件定送 奏價料 附四金 美十二 本錢

件定送 奏價料 附四各 美十二 本錢

梁田貞先生著 自第一集至第五集
梁田貞歌曲
 四六倍判美裝
 定價 各五十錢

小松、葛原、梁田先生著
大正少年唱歌合本
 菊判クロース製
 定價 二圓五十錢

小松、葛原、梁田先生著
大正幼年唱歌合本
 菊判クロース製
 定價 二圓五十錢

園名入保育證書御用命は二月末日迄

以後は貴需に
應じかねます

◇保育證書——堅緻な厚手上質紙に文字墨刷、輪廓金刷、夫々姓名年月日を書き入れます。

一〇〇枚 園名入 金 四 圓

◇出席簿用紙——一〇〇枚 金 一 圓

五〇枚 園名入 金二圓五十錢

◇豫定案兼日誌——一冊(二年分) 金一圓二十錢

無名一枚 金五 錢

◇在籍簿用紙——一〇〇枚 金八十錢

◇月謝袋——一〇〇枚 金一圓四十錢

卒業園児の寄附による記念品は

御園のため、永久的に生命ある弊社製品の御選擇が最も有意義。さてその好評の品々

◇波 動 廻 轉 塔 八〇圓

◇コンビネーション運動具 八五圓

◇子供の家(社會遊び) 八七圓

◇樂隊遊び用樂器 一八圓

◇スモール・セツト 三五圓

◇太 鼓 梯 子 四〇圓

◇人形芝居一揃 四五圓

◇鐵製二人乗ぶらんこ 五三圓

◇大型二十人乗シーソー 七〇圓

◇大型鐵製滑臺 七五圓

◇梓 登 り 一 二〇圓

◇箱 積 木 一 八〇圓

株 式 會 社 丸 貝 館

本店 東京・神田・教育會館内 電話九三二八七番
支店 大阪・東區平野町三 電話本局三一八番

新昭和幼年唱歌

清水良雄 畫伯裝釘

第一輯目次
園長先生
人參食べてる
兎さん
猿はひっかく
鸚鵡のお家
蟲がはねた
ペンギン

第二輯目次
驢馬がにける
野原はひろい
ワクボノリ
鏡を著たい
家鴨を数へま
せう
毬がつきたい

昭和幼年唱歌 第三輯
河馬ちゃん
早く繪や字をかきたいな
ミンミン蟬がないてゐる
すべり臺
お芋ころころ
たんほほ坊主

昭和幼年唱歌 第四輯
二羽の雀
大鼓はごんごん
伸びた竹の子
お父様のお父様お母様の
お母様
門番失敬
たんほほさいた

伴定送 料各 附四 美十二 本錢

新昭和少年唱歌

清水良雄 畫伯裝釘

第一輯目次
お宮にお寺
柿の種ミ握り
飯
やねの上の雀
はまべの子
私の箱庭
ラヂオ體操

第二輯目次
お家にあかり
がつきました
ベリカン
夕立やんで
牛ミ馬
めえく親山
羊子供山羊
日暮山霧

昭和少年唱歌 第三輯
地下鐵道
田圃の雨山の雨
アンテナ線がゆれてます
蛙のプール
私のひよこ
ほっくり浮いたまくわ瓜

昭和少年唱歌 第四輯
朝日がでてる
二列三列桐並木
煙の環
早起き
五月の節句
子兎踊

伴定送 料各 附四 美十二 本錢

廣島高師教諭 山本壽先生著
音樂教育の三大方面
菊判美裝函入
定價 四、五〇

小松、梁田、葛原先生著
文部省 認定
小學歌曲選集
四六倍判美裝
定價 一、二〇

小松耕輔先生著自第一集至第三集
小松耕輔歌曲集
四六倍判美裝
定價 各五十錢

梁田貞先生著 自第一集至第五集
梁田貞歌曲
四六倍判美裝
定價 各五十錢

小松、葛原、梁田先生著
大正少年唱歌合本
菊判クローズ製
定價 二圓五十錢

小松、葛原、梁田先生著
大正幼年唱歌合本
菊判クローズ製
定價 二圓五十錢